

VMware Workstation スタートガイド

VMware Workstation 8

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-000557-00

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/pubs/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2011 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法により保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

VMware Workstation スタート ガイド	5
1 製品の紹介とシステム要件	7
ホストシステムの要件	7
仮想マシンの機能と仕様	10
2 Workstation のインストールと使用	15
Workstation ソフトウェアとライセンス キーの入手	15
Workstation を他の VMWare 製品とともにインストール	16
Eclipse および Visual Studio 用統合仮想デバッガのインストール	16
Workstation のインストール	16
Workstation のアップグレード	22
Workstation のアンインストール	27
Workstation の起動	28
Workstation ウィンドウの使用	28
Workstation のオンライン ヘルプの使用	33
3 仮想マシンの作成	35
仮想マシンの概要	35
標準的な仮想マシンの機能	36
標準的な仮想マシン作成の準備	36
標準的な仮想マシンの作成	40
簡易インストールによる ゲスト OS のインストール	42
ゲスト OS の手動インストール	42
VMware Tools のインストールとアップグレード	43
仮想マシンへの新規ソフトウェアのインストール	52
4 仮想マシンの使用	53
仮想マシンの起動	53
仮想マシンのシャットダウン	54
仮想マシンの一時停止/一時停止の解除	55
仮想マシンのサスペンドまたはレジューム	55
ドラッグ アンド ドロップ機能を使用	56
コピーと貼り付け機能を使用	57
仮想マシンへのホスト プリンタの追加	58
仮想マシン内での取外し可能デバイスの使用	58
仮想マシン ディスプレイの変更	59
フォルダによる仮想マシンの管理	64
仮想マシンのスナップショットの作成	66
仮想マシンを閉じる/Workstation を終了する	71

インデックス 73

VMware Workstation スタート ガイド

『VMware Workstation スタート ガイド』では、VMware[®] Workstation のインストールとアップグレードの方法、標準的な仮想マシンの作成方法、および仮想マシンの一般的な操作方法について説明します。

対象となる読者

この情報は、Workstation をインストールして標準的な仮想マシンを作成するユーザーを対象としています。Workstation の高度な機能の使用方法を含む完全な情報については、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

追加情報ソース

Workstation の使用に関する追加情報については、次のドキュメントを参照してください。いずれのドキュメントも当社 Web サイトから入手できます。

- 『VMware Workstation の使用方法』には、Workstation の高度な機能の使用方法を含む完全な情報が記載されています。
- 『VMware Tools のインストールと構成』には、VMware Tools の使用に関する完全な情報が含まれています。
- 『ゲスト OS インストール ガイド』には、特定のゲスト OS のインストールに関する情報が含まれています。
- オンラインの『互換性ガイド』には、Workstation でサポートされているホストとゲスト OS が一覧表示されます。

Workstation のオンライン ヘルプは、Workstation の設定と一般的なタスクのクイック リファレンス情報を提供します。Workstation の [ヘルプ] メニュー、または Workstation ダイアログ ボックスで [ヘルプ] をクリックすると表示されます。

製品の紹介とシステム要件

Workstation を実行するホスト コンピュータは、特定のハードウェア要件およびソフトウェア要件を満たしている必要があります。Workstation で実行される仮想マシンは特定のデバイスをサポートし、特定の機能を提供します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ホスト システムの要件 \(P. 7\)](#)
- [仮想マシンの機能と仕様 \(P. 10\)](#)

ホスト システムの要件

Workstation をインストールした物理コンピュータをホスト システムと呼び、そのオペレーティング システムをホスト OS と呼びます。Workstation を実行するには、ホスト システムおよびホスト OS が特定のハードウェアおよびソフトウェアの要件を満たす必要があります。

ホスト システムのプロセッサ要件

Workstation は、特定のプロセッサ要件を満たしたホスト システムにインストールする必要があります。

サポートされているプロセッサ

ホスト システムは、次の要件を満たす 64 ビットの x86 CPU を搭載している必要があります。

- LAHF/SAHF のロング モードでのサポート
- コア速度 1.3 GHz 以上

マルチプロセッサ システムに対応しています。

Workstation のインストール時、インストーラによって、ホスト システムがサポートされているプロセッサを搭載しているかどうかを確認されます。ホスト システムが上記のプロセッサ要件を満たさない場合、Workstation をインストールすることはできません。

64 ビットのゲスト OS のプロセッサ要件

仮想マシン内で実行するオペレーティング システムをゲスト OS と呼びます。64 ビットのゲスト OS を実行するには、ホスト システムが次のいずれかのプロセッサを搭載している必要があります。

- ロングモードでのセグメント制限をサポートしている AMD 製 CPU
- VT-x をサポートしている Intel 製 CPU

VT-x をサポートしている Intel 製 CPU を搭載している場合は、ホストシステムの BIOS で VT-x サポートが有効になっていることを確認する必要があります。VT-x のサポートを有効にするために必要な BIOS 設定は、システムベンダーによって異なります。VT-x サポートが有効になっているかどうかを確認する方法については、VMware ナレッジベースの記事 <http://kb.vmware.com/kb/1003944> を参照してください。

64 ビットオペレーティングシステムのインストール時に、Workstation は、ホストシステムがサポートされているプロセッサを搭載しているかどうかを確認します。ホストシステムが上記のプロセッサ要件を満たさない場合、64 ビットオペレーティングシステムをインストールすることはできません。

Windows 7 Aero グラフィックスのプロセッサ要件

Windows 7 Aero グラフィックスをサポートするには、ホストシステムが、Intel Dual Core 2.2 GHz 以降、または AMD Athlon 4200+ 以降の CPU を搭載していなければなりません。

サポートされるホスト OS

Workstation は、Windows と Linux のホスト OS にインストールできます。

サポートされるホスト OS のリストを確認するには、当社 Web サイトでオンラインの『VMware 互換性ガイド』を検索してください。

ホストシステムのメモリ要件

ホストシステムには、ホスト OS、ホストシステム上の仮想マシン内で動作するゲスト OS、およびホスト OS とゲスト OS 上で動作するアプリケーションを実行するのに十分なメモリが必要です。

ホストシステムに必要な最小メモリ容量は 1 GB です。2 GB 以上のメモリを搭載することをお勧めします。

仮想マシンで Windows 7 Aero グラフィックスをサポートする場合は、ホストシステムに最低 3 GB のメモリを搭載する必要があります。ゲスト OS に 1 GB、グラフィックスメモリに 256 MB が割り当てられます。

メモリ要件の詳細については、お使いのゲスト OS とアプリケーションのドキュメントを参照してください。

ホストシステムのディスプレイの要件

ホストシステムには 16 ビットまたは 32 ビットのディスプレイアダプタが必要です。ホストシステムに推奨されている最新のグラフィックスドライバを使用してください。

Windows 7 Aero グラフィックスをサポートするには、ホストシステムに NVIDIA GeForce 8800GT 以降または ATI Radeon HD 2600 以降のグラフィックスプロセッサが必要です。

重要 3DMark '06 のような 3D ベンチマークは、一部のグラフィックスハードウェアを使用する Windows Vista または Windows 7 の仮想マシンで、正確にレンダリングできないか、またはまったくレンダリングできないことがあります。

ホストシステムのディスクドライブの要件

ホストシステムは、特定のディスクドライブ要件を満たす必要があります。ゲスト OS は物理ディスクパーティションまたは仮想ディスクファイルに存在することができます。

表 1-1. ホストシステムのディスクドライブの要件

ドライブの種類	要件
ハードディスク	<ul style="list-style-type: none"> ■ IDE および SCSI ハードドライブをサポート。 ■ 各ゲスト OS およびそこで使用するアプリケーションソフトウェア用に、1 GB 以上の空きディスク容量が推奨されます。デフォルトのセットアップを使用する場合は、実際に必要なディスク容量は、ゲスト OS とアプリケーションを物理コンピュータにインストールして実行する場合とほぼ同じです。 ■ 基本インストールには、Linux で 200 MB、Windows で 1.5 GB の空きディスク容量が必要です。インストールが完了した後でインストーラを削除して、ディスク領域を再利用します。
光学 CD-ROM および DVD	<ul style="list-style-type: none"> ■ IDE および SCSI 光学ドライブをサポート。 ■ CD-ROM および DVD ドライブをサポート。 ■ ISO ディスクイメージファイルをサポート。
フロッピー	仮想マシンをホストコンピュータのディスクドライブに接続できます。フロッピーディスクのイメージファイルもサポートされています。

ホストシステムの LAN の要件

ホスト OS がサポートするすべてのイーサネットコントローラを使用できます。

非イーサネットネットワークは、組み込みのネットワークアドレス変換 (NAT) を使用するか、ホストオンリーネットワークでホスト OS 上のルーティングソフトウェアを使用することでサポートされます。

ホストシステムの ALSA 要件

仮想マシンで ALSA を使用するには、ホストシステムがいくつかの要件を満たす必要があります。

- ホストシステム上の ALSA ライブラリのバージョンが、バージョン 1.0.16 以降でなければなりません。
- ホストシステムのサウンドカードが ALSA をサポートする必要があります。ALSA プロジェクトの Web サイトに、ALSA をサポートするサウンドカードとチップセットの最新のリストが表示されています。
- ホストシステム上のサウンドデバイスがミュートされていない必要があります。
- サウンドデバイスを利用するための適切なアクセス権が現在のユーザーに付与されている必要があります。

ヘルプシステムの要件

Workstation のヘルプシステムを使用するには、ホストシステムにサポート対象の Web ブラウザがインストールされている必要があります。

次の Web ブラウザバージョンがサポートされています。

- Internet Explorer 6 以降
- Mozilla Firefox 1.x 以降
- Netscape 7.x 以降
- Safari 1.x 以降
- Opera 7.54u2 以降

Chrome はローカルシステムの JavaScript をサポートしないため、Workstation のヘルプシステムを Chrome に表示することはできません。

仮想マシンの機能と仕様

Workstation の仮想マシンは、特定のデバイスをサポートし、一定の機能を提供します。

サポートされるゲスト OS

ゲスト OS には、Windows、Linux、およびその他の広く利用されているオペレーティング システムが使用できます。

サポートされるゲスト OS のリストを参照するには、当社 Web サイトでオンラインの『互換性ガイド』を検索してください。

一般的なゲスト OS のインストールについては、『ゲスト OS インストール ガイド』を参照してください。

仮想マシンでサポートされるプロセッサ

仮想マシンでは、特定のプロセッサ機能がサポートされています。

- ホスト コンピュータに搭載されているプロセッサと同じ。
- 1 つ以上の論理プロセッサを備えるホストシステム上に 1 つの仮想プロセッサ。
- 2 つ以上の論理プロセッサを備えるホストシステム上に最大で 8 つの仮想プロセッサ (8 Way 仮想対称型マルチプロセッシング、すなわち仮想 SMP)。

注意 Workstation は、2 つ以上の物理 CPU を備えたマルチプロセッサ ホスト、マルチコア CPU を備えたシングルプロセッサ ホスト、ハイパースレッド対応のシングルプロセッサ ホストは、2 つの論理プロセッサを備えていると見なします。

仮想マシンのチップセットおよび BIOS サポート

仮想マシンは特定の仮想マシン チップセットと BIOS 機能をサポートします。

- Intel 440BX 搭載マザーボード
- NS338 SIO チップセット
- 82093AA I/O Advanced Programmable Controller (I/O APIC)
- VESA BIOS をサポートする Phoenix BIOS 4.0 Release 6

仮想マシンのメモリ割り当て

単一のホストシステム上で動作するすべての仮想マシンに割り当てられる合計メモリ量を制約するのは、ホストの RAM サイズのみです。

64 ビット ホストでは、各仮想マシンの最大メモリ容量は 64 GB です。32 ビット ホストでは、各仮想マシンの最大メモリ容量は 8 GB です。Workstation では、32 ビット ホスト上で 8GB を超えるメモリを使用するように構成された仮想マシンをパワーオンできません。32 ビット オペレーティング システムのメモリ管理の制限を超えると、仮想マシン メモリのオーバーコミットを引き起こし、システムのパフォーマンスに重大な影響を与えます。

仮想マシンのグラフィックス サポートおよびキーボード サポート

仮想マシンは特定のグラフィックス機能およびキーボードをサポートします。

- VGA と SVGA がサポートされます。
- 104 キー Windows 95/98 拡張キーボードがサポートされます。

- ゲスト OS の Windows XP または Windows 7 で OpenGL (Open Graphics Library) の拡張機能である `GL_EXT_texture_compression_s3tc` および `GL_S3_s3tc` を使用するには、そのゲスト OS に Microsoft DirectX エンド ユーザー ランタイムをインストールする必要があります。OpenGL は 2D および 3D コンピュータ グラフィックスの定義に使用される API (Application Program Interface) です。Microsoft DirectX エンド ユーザー ランタイムは Microsoft ダウンロード センター Web サイトからダウンロードできます。

仮想マシンの IDE ドライブ サポート

仮想マシンは特定の IDE ドライブおよび機能をサポートします。

- ディスク、CD-ROM および DVD ドライブを含む最大 4 つのデバイスをサポートします。
- DVD ドライブは データ DVD ディスクの読み込みにのみ使用できます。
- DVD ビデオはサポートされていません。
- ハード ディスクには仮想ディスクまたは物理ディスクを使用できます。
- 最大 2 TB の IDE 仮想ディスクを使用できます。
- CD-ROM ドライブには物理デバイスまたは ISO イメージ ファイルを使用できます。

仮想マシンの SCSI デバイス サポート

仮想マシンは特定の SCSI デバイスおよび機能をサポートします。

- 最大 60 個のデバイスをサポートします。
- 最大 2 TB の SCSI 仮想ディスクを使用できます。
- ハード ディスクには仮想ディスクまたは物理ディスクを使用できます。
- 汎用 SCSI サポートにより、ホスト OS にドライバをインストールすることなく、仮想マシンでデバイスを使用できます。スキャナ、CD-ROM ドライブ、DVD ドライブ、テープドライブ、およびその他の SCSI デバイスが汎用 SCSI サポートで動作します。
- LSI Logic LSI53C10xx Ultra320 SCSI I/O コントローラがサポートされています。
- Mylex (BusLogic) BT-958 互換のホスト バス アダプタは、VMware が提供するアドオン ドライバを使用することで Windows XP および Windows Server 2003 でサポートされます。

仮想マシンのフロッピー ドライブ サポート

仮想マシンでフロッピー ドライブを使用できます。

- 最大 2 つの 2.88 MB フロッピー デバイスをサポートします。
- フロッピー ドライブには物理ドライブまたはフロッピー イメージ ファイルを使用できます。

仮想マシンのシリアルおよびパラレル ポート サポート

仮想マシンはシリアル (COM) ポートおよびパラレル (LPT) ポートをサポートします。

- 最大 4 つのシリアル (COM) ポートをサポートします。シリアル ポート、Windows/Linux ファイル、または名前付きパイプに出力可能です。
- 最大 3 つの双方向パラレル (LPT) ポート。パラレル ポートまたはホスト OS のファイルに出力可能です。

仮想マシンの USB ポート サポート

仮想マシンで USB ポートを使用できます。仮想マシンは特定の USB デバイスをサポートします。

- USB 1.1 UHCI (Universal Host Controller Interface) および USB 2.0 EHCI (Enhanced Host Controller Interface) コントローラをサポートします。USB 2.0 のサポートを有効にするには、仮想マシン設定を構成する必要があります。
- 新しい仮想 xHCI USB コントローラを通じてカーネルバージョン 2.6.35 以降 (Ubuntu 10.10) を実行している Linux ゲストには、USB 3.0 サポートが提供されます。この機能を有効にするには、仮想マシン構成 (.vmx) ファイルに **usb_xhci.present = "true"** という行を追加します。Windows ゲストに対してこの機能を有効にしないでください。現時点では Windows には汎用 xHCI ドライバがないため、この機能は Windows ゲストでは動作しません。
- USB プリンタ、スキャナ、PDA、ハードディスク ドライブ、メモリ カードリーダー、デジタルカメラなどのほとんどの USB デバイスをサポートします。また、Web カメラ、スピーカー、マイクなどのストリーミング デバイスをサポートします。

仮想マシンのマウスおよび描画タブレット サポート

仮想マシンは特定のタイプのマウスおよび描画タブレットをサポートします。

- PS/2 および USB マウスをサポートしています。
- シリアル タブレットをサポートしています。
- USB タブレットをサポートしています。

仮想マシンのイーサネット カード サポート

仮想マシンは特定のタイプのイーサネット カードをサポートします。

- 最大 10 枚の仮想イーサネット カードをサポートします。
- AMD PCnet-PCI II イーサネット アダプタをサポートします。64 ビット ゲストでは、Intel Pro/1000 MT サーバアダプタもサポートします。

仮想マシンのネットワーク サポート

仮想マシンは特定のイーサネット スイッチとネットワーク プロトコルをサポートします。

- Windows ホスト OS の場合、最大 10 個の仮想イーサネット スイッチをサポートします。Linux ホスト OS の場合、最大 255 個の仮想イーサネット スイッチをサポートします。
- そのうち 3 つはデフォルトでブリッジ、ホストオンリーおよび NAT ネットワークに構成されています。
- TCP/IP、NetBEUI、Microsoft Networking、Samba、Novell NetWare、Network File System など、ほとんどのイーサネット ベースのプロトコルをサポートします。
- 組み込みの NAT ネットワークは TCP/IP、FTP、DNS、HTTP および Telnet を使ったクライアントソフトウェアをサポートします。NAT での PPTP の VPN をサポートします。

仮想マシンのサウンド サポート

Workstation では、Sound Blaster AudioPCI および Intel High-Definition Audio Specification と互換性のあるサウンド デバイスを使用できます。Workstation のサウンド デバイスはデフォルトでは有効に設定されています。

Workstation は、Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2003、Windows Server 2008、および Linux のゲスト OS でサウンドをサポートしています。

サウンドとして、PCM (パルス コード モジュレーション) 入出力がサポートされています。 .wav ファイル、MP3 オーディオ、Real Media オーディオを再生できます。Windows ゲスト OS での MIDI 出力は Windows ソフトウェア シンセサイザによってサポートされます。MIDI 入力にはサポートされません。また、Linux ゲスト OS では MIDI はまったくサポートされません。

Windows XP、Windows Vista、Windows 7、および最近のほとんどの Linux ディストリビューションでは、サウンド デバイスを検出し、それに適したドライバをインストールします。

Windows 95、Windows 98、Windows 98SE、および Windows NT 4.0 には、Sound Blaster AudioPCI アダプタのドライバは搭載されていません。これらのゲスト OS でサウンドを使用するには、Creative Labs 社の Web サイトからドライバをダウンロードして、ゲスト OS にインストールする必要があります。Creative Labs 社は、世界中のさまざまな地域を対象とする Web サイトを提供しています。地域によってアダプタ名は異なりますが、通常は名前に PCI 128 が含まれています。

Workstation 7.x 以前の仮想マシンでは、VMware Tools に含まれる vmaudio ドライバが 64 ビットの Windows XP、Windows 2003、Windows Vista、Windows 2008、および Windows 7 の各ゲスト OS と、32 ビットの Windows 2003、Windows Vista、Windows 2008、および Windows 7 の各ゲスト OS にインストールされます。

Workstation 8.x 以降の仮想マシンでは、64 ビットおよび 32 ビットの両方の Windows Vista と Windows 7 ゲスト OS、またそれぞれのサーバのゲスト OS で High-Definition Audio (HD Audio) デバイスがデフォルトで提示されます。HD Audio のドライバは、VMware Tools の一部としてではなく、Windows によって提供されます。

Linux ホスト システム では、Workstation 7.x 以降で Advanced Linux Sound Architecture (ALSA) がサポートされます。以前のバージョンの Workstation は、Linux ホスト システムで実行する仮想マシンでのサウンドのプレイバックとレコーディングに Open Sound System (OSS) インターフェイスを使用します。OSS と異なり、ALSA はサウンド デバイスへの排他的アクセスが必要ありません。ホスト システムと複数の仮想マシンが同時にサウンドを再生できます。

Workstation のインストールと使用

Workstation は Linux ホストシステムまたは Windows ホストシステムにインストールできます。通常、Workstation のインストールまたはアップグレードには標準的な GUI ウィザードを使用します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Workstation ソフトウェアとライセンス キーの入手 \(P. 15\)](#)
- [Workstation を他の VMWare 製品とともにインストール \(P. 16\)](#)
- [Eclipse および Visual Studio 用統合仮想デバッガのインストール \(P. 16\)](#)
- [Workstation のインストール \(P. 16\)](#)
- [Workstation のアップグレード \(P. 22\)](#)
- [Workstation のアンインストール \(P. 27\)](#)
- [Workstation の起動 \(P. 28\)](#)
- [Workstation ウィンドウの使用 \(P. 28\)](#)
- [Workstation のオンライン ヘルプの使用 \(P. 33\)](#)

Workstation ソフトウェアとライセンス キーの入手

Workstation のパッケージ ボックスを使用する場合は、パッケージ内のインストール メディアにインストール ソフトウェアが含まれています。また、ライセンス キーは、パッケージの登録カードに記載されています。ダウンロード版を使用する場合は、ダウンロードしたファイルにインストール ソフトウェアが含まれます。また、ライセンス キーは電子メールで送信されます。

両方のホスト プラットフォーム用のインストール ファイルが、パッケージ ボックスに含まれます。ライセンス キーは、Windows バージョンおよび Linux バージョンのどちらの Workstation にも使用できます。ライセンスはホストシステムごとに 1 つ必要です。

インストール時に Workstation のライセンス キーを入力しない場合は、後で [ヘルプ] - [ライセンス キーの入力] を選択し、Workstation の [アクティベーション] ダイアログ ボックスでライセンス キーを入力して指定できます。ライセンス キーを購入し、Workstation の [アクティベーション] ダイアログ ボックスで評価版ライセンスのステータスを確認することもできます。

評価版ライセンスの入手については、当社 Web サイトを参照してください。

注意 ライセンスが無効な場合は、Workstation で仮想マシンのパワーオンを試行するたびに有効なライセンス キーを入力するように求められます。

Workstation を他の VMWare 製品とともにインストール

Workstation とホスト マシンを共有できる VMware 製品は、VMware vSphere Client と VMware vCenter Converter Standalone のみです。これ以外の VMware 仮想化製品がインストールされているホスト システムには Workstation をインストールできません。

ホスト システムに他の VMware 仮想化製品がインストールされている場合は、先にその製品をアンインストールしてから Workstation をインストールする必要があります。

Eclipse および Visual Studio 用統合仮想デバッガのインストール

Eclipse または Visual Studio 用統合仮想デバッガを使用する場合は、Workstation のインストール前に、統合仮想デバッガをホスト システムにインストールする必要があります。

Workstation のインストール後に Eclipse または Visual Studio 用統合仮想デバッガをインストールする必要がある場合は、Workstation のインストーラを再実行して [変更] を選択し、関連する Workstation プラグインをインストールします。

ホスト システムの要件およびサポートされるオペレーティングシステムについては、『Integrated Virtual Debugger for Eclipse Developer’s Guide』と『Integrated Virtual Debugger for Visual Studio Developer’s Guide』を参照してください。いずれのガイドも当社 Web サイトから入手できます。

Workstation のインストール

Windows ホストシステムに Workstation をインストールするには、インストール ウィザードを実行するか、Microsoft Windows Installer (MSI) の自動インストール機能を使用します。MSI の自動インストール機能は、複数の Windows ホスト コンピュータに Workstation をインストールする際にウィザードのプロンプトに回答せずにインストールを実行したい場合に有用です。Linux ホストシステムへ Workstation をインストールするには、Workstation バンドル インストーラを実行します。

- [Windows ホストへの Workstation のインストール](#) (P. 16)

Windows ホスト システムに Workstation をインストールするには、Windows セットアップ プログラムとインストール ウィザードを実行します。

- [Windows ホスト上での Workstation の自動インストールの実行](#) (P. 18)

Microsoft Windows Installer (MSI) の自動インストール機能を使用すれば、ウィザードのプロンプトに回答することなく、複数の Windows ホスト システムに Workstation をインストールできます。これは、大規模な組織でインストールを実施する場合に有用です。

- [Linux ホストへの Workstation のインストール](#) (P. 20)

Linux ホスト システムに Workstation をインストールするには、Linux バンドル インストーラを実行します。ほとんどの Linux ディストリビューションでは、Linux バンドル インストーラを実行すると GUI ウィザードが起動されます。Red Hat Enterprise Linux 5.1 など一部の Linux ディストリビューションでは、GUI ウィザードではなくコマンドライン ウィザードがバンドル インストーラによって起動されます。--console オプションを使用してインストーラを実行すると、ターミナル ウィンドウで Workstation をインストールできます。

Windows ホストへの Workstation のインストール

Windows ホスト システムに Workstation をインストールするには、Windows セットアップ プログラムとインストール ウィザードを実行します。

リモート接続および仮想マシンの共有は、Workstation のインストール時にデフォルトで有効になっています。リモート接続を有効にすると、リモート ホストに接続してリモート仮想マシンを実行できます。仮想マシンの共有を有効にすると、他の Workstation インスタンスからリモートでアクセス可能な仮想マシンを作成できます。

共有仮想マシンは、VMware Workstation Server (VMware Workstation Server サービス) が管理する共有仮想マシンディレクトリに格納されます。リモートユーザーは、ホストシステムの HTTPS ポート 443 を介して VMware Workstation Server に接続されます。

インストール時に共有仮想マシンディレクトリを変更したり、他のポートを選択したりするには、[カスタム] オプションを選択する必要があります。Workstation のインストール後に共有 VMs Workstation 環境設定を変更することにより、共有仮想マシンディレクトリの変更、別のポートの選択、リモート接続および仮想マシンの共有の無効化を実行できます。詳細については、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

開始する前に

- ホストシステムがホストシステムの要件を満たすことを確認します。「[ホストシステムの要件 \(P. 7\)](#)」を参照してください。
- ホストシステムで管理者権限を持っていることを確認します。
- 互換性がない VMware 製品がホストシステムにインストールされていないことを確認します。「[Workstation を他の VMWare 製品とともにインストール \(P. 16\)](#)」を参照してください。
- Workstation ソフトウェアとライセンスキーを入手します。「[Workstation ソフトウェアとライセンスキーの入手 \(P. 15\)](#)」を参照してください。
- Eclipse または Visual Studio 用統合仮想デバッグを使用する場合は、ホストシステムにインストールします。「[Eclipse および Visual Studio 用統合仮想デバッグのインストール \(P. 16\)](#)」を参照してください。

手順

- 1 Administrator ユーザーまたはローカルの Administrators グループのメンバーとして、Windows ホストシステムにログインします。

ドメインにログインする場合、ドメイン アカウントもローカル管理者である必要があります。

- 2 Workstation を CD からインストールする場合、ホストシステムの CD-ROM ドライブに CD を挿入します。
自動実行が有効の場合は、インストール プログラムが開始します。
- 3 自動再生が有効になっていない場合、またはインストール ソフトウェアをダウンロードした場合は、セットアップ ファイルをダブルクリックします。

オプション	説明
ソフトウェアを CD からインストールする	セットアップ ファイルは setup.exe という名前です。
ダウンロードしたソフトウェアを使用する	セットアップ ファイルには VMware-workstation-<small><xxxx-xxxx></small>.exe のようなファイル名が付けられています。 <small><xxxx-xxxx></small> にはバージョン番号とビルド番号を表す数字が入ります。

- 4 セットアップ オプションを選択します。

オプション	説明
標準	標準的な Workstation 機能をインストールします。Visual Studio または Eclipse 用統合仮想デバッグがホストシステムに存在する場合は、関連する Workstation プラグインがインストールされます。
カスタム	インストールする Workstation 機能を選択して、インストール先を指定できます。共有仮想マシンディレクトリや VMware Workstation Server のポートを変更したり、拡張仮想キーボードドライバをインストールしたりする場合にこのオプションを選択します。拡張仮想キーボードドライバは、各国語対応のキーボードや特殊なキーを持つキーボードを適切に処理します。

- 5 プロンプトに従ってインストールを完了します。
設定によっては、インストールの完了後にホストシステムの再起動が必要となる場合があります。

Workstation のインストール後、VMware Workstation Server サービスがホストシステム上で起動します。VMware Workstation Server サービスは、ホストシステムの再起動のたびに起動します。

Windows ホスト上での Workstation の自動インストールの実行

Microsoft Windows Installer (MSI) の自動インストール機能を使用すれば、ウィザードのプロンプトに回答することなく、複数の Windows ホストシステムに Workstation をインストールできます。これは、大規模な組織でインストールを実施する場合に有用です。

開始する前に

- ホストシステムがホストシステムの要件を満たすことを確認します。「[ホストシステムの要件 \(P. 7\)](#)」を参照してください。
- 互換性がない VMware 製品がホストシステムにインストールされていないことを確認します。「[Workstation を他の VMware 製品とともにインストール \(P. 16\)](#)」を参照してください。
- Workstation ソフトウェアとライセンス キーを入手します。「[Workstation ソフトウェアとライセンス キーの入手 \(P. 15\)](#)」を参照してください。
- Eclipse または Visual Studio 用統合仮想デバッグを使用する場合は、ホストシステムにインストールします。「[Eclipse および Visual Studio 用統合仮想デバッグのインストール \(P. 16\)](#)」を参照してください。
- ホスト コンピュータに MSI 2.0 以降のランタイム エンジンが搭載されていることを確認します。このバージョンのインストーラは Windows XP 以降のバージョンの Windows に組み込まれています。また、Microsoft 社から入手することもできます。詳細は、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。
- REMOVE プロパティの値について理解しておく必要があります。「[REMOVE プロパティの値 \(P. 19\)](#)」を参照してください。
- インストール プロパティについて理解しておく必要があります。「[インストール プロパティ \(P. 19\)](#)」を参照してください。

手順

- 1 Administrator ユーザーまたはローカルの Administrators グループのメンバーとしてホストシステムにログインします。
ドメインにログインする場合、ドメイン アカウントもローカル管理者である必要があります。
- 2 Workstation を CD からインストールする場合、ホストシステムの CD-ROM ドライブに CD を挿入します。
- 3 セットアップファイルから管理用インストール イメージを展開します。

Workstation を CD からインストールする場合、セットアップファイルは `setup.exe` という名前です。インストールソフトウェアをダウンロードした場合、セットアップファイルには `VMware-workstation-<xxxx-xxxx>.exe` のようなファイル名が付けられています。`<xxxx-xxxx>` にはバージョン番号とビルド番号を表す数字が入ります。

例：`setup.exe /s /e <install_temp_path>`

- 4 インストール コマンドは 1 行で入力してください。

例：

```
setup.exe /s /v "[INSTALLDIR=""<path_to_program_directory>"" ] ADDLOCAL=ALL [REMOVE=<value>,<value>] /qn"
```

オプションで `INSTALLDIR` プロパティを使用して、インストール用にデフォルトの場所とは異なるファイルパスを指定できます。ファイルパスを二重引用符で囲むことが重要です。MSI 引数はすべて `/v` オプションで渡されます。外側の引用符が MSI 引数を区切り、二重引用符はその引数の中に引用符を挿入します。オプションで `REMOVE` プロパティを使用して、特定の機能のインストールを省略できます。

REMOVE プロパティの値

Workstation の自動インストール実行時に REMOVE プロパティをインストール コマンドで指定すると、いくつかの機能のインストールをスキップできます。

インストール コマンドで REMOVE プロパティの値を指定する形式は **REMOVE=<値>** です。複数の機能をスキップするには、たとえば **REMOVE=<値, 値>** のように、個々の値をコンマで区切ります。

表 2-1. REMOVE プロパティの値

値	スキップする機能
Authd	VMware 認証サービス。ユーザーが Administrator として Workstation を実行していない場合に、タスクを実行するために使用されます。
Network	仮想ブリッジ、ホストオンリー ネットワークや NAT ネットワーク向けのホスト アダプタなどのネットワーク コンポーネント。NAT や DHCP を使用する場合は、このコンポーネントを削除しないでください。
DHCP	仮想 DHCP サーバ。
NAT	仮想 NAT デバイス。

インストール プロパティ

Workstation の自動インストール実行時にインストール プロパティをインストール コマンドで指定すると、インストールをカスタマイズできます。

インストール コマンドでインストール プロパティを指定する形式は **<プロパティ>=<値>** です。値 1 は True を、値 0 は False を意味します。

表 2-2. インストール プロパティ

プロパティ	説明	デフォルト値
DESKTOP_SHORTCUT	Workstation のインストール時に、デスクトップにショートカットを追加します。	1
REMOVE_LICENSE	Workstation のアンインストール時に、保存されているライセンスをすべて削除します。	0
SERIALNUMBER	Workstation のインストール時に、ライセンス キーを入力できます。ライセンス キーにハイフンを含めて入力してください (例: xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx)。	
HOSTD_HTTPS_PORT	VMware Workstation Server の HTTPS ポートを指定します。	443
REMOVE_ACCOUNT_INFO	Workstation のアンインストール時に、アカウント情報を削除します。	1
REMOVE_SETTINGFILES	Workstation のアンインストール時に、設定ファイルを削除します。	1
STARTMENU_SHORTCUT	Workstation のインストール時に [スタート] メニューを追加します。	1
QUICKLAUNCH_SHORTCUT	Workstation のインストール時に、クイック起動ショートカットを追加します。	1

Linux ホストへの Workstation のインストール

Linux ホストシステムに Workstation をインストールするには、Linux パンドル インストーラを実行します。ほとんどの Linux ディストリビューションでは、Linux パンドル インストーラを実行すると GUI ウィザードが起動されます。Red Hat Enterprise Linux 5.1 など一部の Linux ディストリビューションでは、GUI ウィザードではなくコマンドライン ウィザードがパンドル インストーラによって起動されます。--console オプションを使用してインストーラを実行すると、ターミナル ウィンドウで Workstation をインストールできます。

リモート接続および仮想マシンの共有は、Workstation のインストール時にデフォルトで有効になっています。リモート接続を有効にすると、リモート ホストに接続してリモート仮想マシンを実行できます。仮想マシンの共有を有効にすると、他の Workstation インスタンスからリモートでアクセス可能な仮想マシンを作成できます。

共有仮想マシンは、VMware Workstation Server (vmware-workstation-server) が管理する共有仮想マシン ディレクトリに格納されます。リモート ユーザーは、ホストシステムの HTTPS ポート 443 を介して VMware Workstation Server に接続されます。

インストール時に共有仮想マシン ディレクトリを変更したり、他のポートを選択したりするには、--custom オプションを指定する必要があります。Workstation のインストール後に共有 VMs Workstation 環境設定を変更することにより、共有仮想マシン ディレクトリの変更、別のポートの選択、リモート接続および仮想マシンの共有の無効化を実行できます。詳細については、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

開始する前に

- ホストシステムがホストシステムの要件を満たすことを確認します。[「ホストシステムの要件 \(P. 7\)」](#)を参照してください。
- 互換性がない VMware 製品がホストシステムにインストールされていないことを確認します。[「Workstation を他の VMWare 製品とともにインストール \(P. 16\)」](#)を参照してください。
- Workstation ソフトウェアとライセンス キーを入手します。[「Workstation ソフトウェアとライセンス キーの入手 \(P. 15\)」](#)を参照してください。
- Integrated Virtual Debugger for Eclipse を使用する場合は、ホストシステムにインストールします。[「Eclipse および Visual Studio 用統合仮想デバッガのインストール \(P. 16\)」](#)を参照してください。
- リアルタイム クロック機能は Linux カーネル内にコンパイルします。
- パラレル ポートを PC-style hardware オプション (CONFIG_PARPORT_PC) でビルドし、カーネルのコンパイル時に m に設定して、カーネル モジュールとしてロードする必要があります。
- Linux コマンドライン インストール オプションについて理解しておく必要があります。一部の構成設定の指定には --custom オプションを使用する必要があります。[「Linuxコマンドラインインストールオプション\(P.21\)」](#)を参照してください。
- ホストシステムの root アクセス権があることを確認します。

手順

- 1 Workstation を実行するときに使用するユーザー名でホストシステムにログインします。
- 2 root に切り替えます。
例：`su root`
使用するコマンドは、Linux ディストリビューションおよび構成によって異なります。
- 3 インストール メディアから Workstation をインストールする場合は、Workstation のインストール メディアをマウントします。

- 4 Workstation インストーラ ファイルがあるディレクトリに移動します。

オプション	説明
ソフトウェアを CD からインストールする	インストーラ ファイルは Linux ディレクトリにあります。
ダウンロードしたソフトウェアを使用する	インストーラ ファイルはダウンロード ディレクトリにあります。

- 5 ホスト システムに対応する Workstation インストーラを実行します。

例: `sh VMware-Workstation-<xxxx-xxxx>.<architecture>.bundle [--<option>]`

<xxxx-xxxx> はバージョン番号とビルド番号、<architecture> は i386 または x86_64、<option> はコマンドライン オプションです。

- 6 Open Virtualization Format (OVF) Tool のライセンス契約に同意します。

`--console` オプションを使用している場合、または GUI ウィザードをサポートしないホスト システムに Workstation をインストールしている場合は、<Enter> キーを押してスクロールしながらライセンス契約を読むか、**q** を入力して `[[yes/no]]` プロンプトにスキップします。

- 7 プロンプトに従ってインストールを完了します。

Workstation がインストールされると、ホスト システムで `vmware-workstation-server` が起動します。ホスト システムを再起動すると、`vmware-workstation-server` が起動します。

Linux コマンドライン インストール オプション

コマンドライン インストール オプションを使用して、Linux ホスト システムに Workstation をインストールできます。

インストール オプションを使用するには、`root` としてログインする必要があります。インストールが終了したら、`root` アカウントからログアウトします。

表 2-3. Linux コマンドライン インストール オプション

オプション	説明
<code>--gtk</code>	GUI ベースの VMware インストーラを開きます。デフォルトのオプションです。
<code>--console</code>	インストールに端末を使用できるようにします。
<code>--custom</code>	このオプションを使用して、次のインストール設定をカスタマイズします。 <ul style="list-style-type: none"> ■ インストール ディレクトリの場所。 ■ VMware Workstation Server に最初に接続するユーザー。このユーザーは、共有仮想マシンを作成、管理できます。 ■ 開いているファイル記述子の数のハード制限。 ■ 共有仮想マシン ディレクトリの場所。 ■ VMware Workstation Server がホスト システムで使用する HTTPS ポート。
<code>--regular</code>	それまでに回答されていないインストールに関する質問または必須の質問を表示します。デフォルトのオプションです。
<code>--required</code>	使用許諾契約のみを表示し、続けて Workstation をインストールします。
<code>--ignore-errors</code> または <code>-I</code>	いずれかのインストーラ スクリプトにエラーがあっても、インストールを続行できるようにします。エラーが発生したセクションは完了しないため、コンポーネントが正常に構成されない可能性があります。

Workstation のアップグレード

Workstation 4、5.x、6.x、または 7.x から最新バージョンの Workstation にアップグレードするには、Workstation のインストール プログラムを実行します。

インストール プログラムは Workstation のアップグレード時に、以前のバージョンの Workstation を削除してから新しいバージョンをインストールします。

最新機能を使用するには、以前のバージョンの Workstation で作成された仮想マシンを最新バージョンの Workstation にアップグレードする必要があります。

- [アップグレードを開始する前に](#) (P. 22)

Workstation をアップグレードする前に、いくつかの手順を実行する必要があります。

- [Windows ホスト上での Workstation のアップグレード](#) (P. 23)

Windows ホストシステムで Workstation 4、5.x、6.x、または 7.x から最新バージョンの Workstation にアップグレードするには、Windows 用の Workstation セットアップ プログラムとインストール ウィザードを実行します。

- [Linux ホスト上での Workstation のアップグレード](#) (P. 24)

Linux ホストシステムで Workstation 4、5.x、6.x、または 7.x から最新バージョンの Workstation にアップグレードするには、Linux の Workstation 用 バンドル インストーラを実行します。ほとんどの Linux ディストリビューションでは、Linux バンドル インストーラを実行すると GUI ウィザードが起動されます。Red Hat Enterprise Linux 5.1 など一部の Linux ディストリビューションでは、GUI ウィザードではなくコマンドライン ウィザードがバンドル インストーラによって起動されます。--console オプションを使用してインストーラを実行すると、ターミナル ウィンドウで Workstation をアップグレードできます。

- [仮想マシンのハードウェア互換性の変更](#) (P. 26)

仮想マシンのハードウェアの互換性を変更できます。すべての仮想マシンに対してハードウェアのバージョンが設定されています。ハードウェアのバージョンは、BIOS または EFI、仮想スロット数、最大 CPU 数、最大メモリ構成、およびその他のハードウェア特性など、仮想マシンがどの仮想ハードウェア機能をサポートするかを表します。

アップグレードを開始する前に

Workstation をアップグレードする前に、いくつかの手順を実行する必要があります。

手順

- すべての仮想マシンが Workstation 4、5.x、6.x、または 7.x の仮想マシンであることを確認します。

Workstation 2 または 3 の仮想マシンからアップグレードを直接実行することはできません。

- 新しいバージョンの Workstation のシステム要件を確認します。
- 仮想マシンがバージョン 5.5 より前の Workstation で作成されており、その仮想マシンにスナップショットが設定されている場合は、スナップショットを削除してください。
- Workstation 4、5.x、6.x、または 7.x からのアップグレードで、アップグレードする前のバージョンの Workstation で特定の物理アダプタまたは仮想アダプタへのマッピングにブリッジ設定を使用していた場合は、これらの設定を控えておきます。

Workstation のアップグレード後、マッピングを作成し直す必要があります。

- 実行中のすべての仮想マシンを Workstation でパワーオフします。
- 仮想マシンがサスペンド状態になっている場合は、Workstation でレジュームしてからパワーオフします。
- バックグラウンドで実行している仮想マシンがある場合は、Workstation で起動してパワーオフします。

- 仮想マシン ディレクトリにあるファイルのバックアップ コピーを作成し、他のディレクトリに保存して、すべての仮想マシンをバックアップします。

バックアップが必要なファイルには、**.vmdk** または **.dsk** ファイル、**.vmx** または **.cfg** ファイル、および **.nvram** ファイルが含まれます。アップグレード パスによっては、最新バージョンの Workstation と旧バージョンの Workstation の両方で仮想マシンを実行できないことがあります。

- Windows XP 上の Workstation 6.x から Windows Vista または Windows 7 上の最新バージョンの Workstation にアップグレードする場合は、Service Pack 2 がインストールされていることを確認してからホスト OS を Windows Vista または Windows 7 にアップグレードします。
- Windows Vista 上の Workstation 5.x を Windows Vista 上の最新バージョンの Workstation にアップグレードする場合は、Windows のコントロール パネルで [プログラム] - [プログラムと機能] - [プログラムのアンインストール] を選択して、Workstation 5.x を手動でアンインストールします。
- Windows XP 上の Workstation 5.x から Windows Vista または Windows 7 上の最新バージョンの Workstation にアップグレードする場合は、Windows のコントロール パネルで [プログラムの追加と削除] を選択して、Workstation 5.x を手動でアンインストールします。

Windows XP から Windows Vista または Windows 7 へのアップグレード時に、仮想マシンの場所が変更される場合があります。Windows Vista および Windows 7 のアップグレードは、レジストリを使って仮想マシンを新しい場所にマップします。Windows XP からアップグレードする前の仮想マシンの場所はデフォルトで **C:\Documents and Settings\\My Documents\My Virtual Machines** です。アップグレード後の Windows Vista および Windows 7 の仮想マシンの場所はデフォルトで **C:\Users\\Documents\Virtual Machines\<guestOSname>** です。

Windows ホスト上での Workstation のアップグレード

Windows ホストシステムで Workstation 4、5.x、6.x、または 7.x から最新バージョンの Workstation にアップグレードするには、Windows 用の Workstation セットアップ プログラムとインストール ウィザードを実行します。

リモート接続および仮想マシンの共有は、Workstation をアップグレードするとデフォルトで有効になります。リモート接続を有効にすると、リモート ホストに接続してリモート仮想マシンを実行できます。仮想マシンの共有を有効にすると、他の Workstation インスタンスからリモートでアクセス可能な仮想マシンを作成できます。

共有仮想マシンは、VMware Workstation Server (VMware Workstation Server サービス) が管理する共有仮想マシン ディレクトリに格納されます。リモート ユーザーは、ホストシステムの HTTPS ポート 443 を介して VMware Workstation Server に接続されます。

アップグレード時に共有仮想マシン ディレクトリを変更したり、他のポートを選択したりするには、[カスタム] オプションを選択する必要があります。Workstation のアップグレード後に共有 VMs Workstation 環境設定を変更することにより、共有仮想マシン ディレクトリの変更、別のポートの選択、リモート接続および仮想マシンの共有の無効化を実行できます。詳細については、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

開始する前に

- ホストシステムがホストシステムの要件を満たすことを確認します。「[ホストシステムの要件 \(P. 7\)](#)」を参照してください。
- ライセンス キーが手元にあることを確認してください。
- ホストシステムで管理者権限を持っていることを確認します。
- アップグレードを準備します。「[アップグレードを開始する前に \(P. 22\)](#)」を参照してください。

手順

- 1 Administrator ユーザーまたはローカルの Administrators グループのメンバーとして、Windows ホストシステムにログインします。

ドメインにログインする場合、ドメイン アカウントもローカル管理者である必要があります。

- Workstation を CD からアップグレードする場合、ホストシステムの CD-ROM ドライブに CD を挿入します。
自動実行が有効の場合は、インストール プログラムが開始します。
- 自動再生が有効になっていない場合、またはインストール ソフトウェアをダウンロードした場合は、セットアップ ファイルをダブルクリックします。

オプション	説明
ソフトウェアを CD からインストールする	セットアップ ファイルは setup.exe という名前です。
ダウンロードしたソフトウェアを使用する	セットアップ ファイルには VMware-workstation-<xxxx-xxxx>.exe のようなファイル名が付けられています。<xxxx-xxxx> にはバージョン番号とビルド番号を表す数字が入ります。

- [アンインストール] をクリックして以前のバージョンの Workstation をアンインストールします。
- ホストシステムの再起動後、Administrator ユーザーまたはローカルの Administrators グループのメンバーとしてホストシステムにログインします。

ドメインにログインする場合、ドメイン アカウントもローカル管理者である必要があります。
- セットアップ オプションを選択します。

オプション	説明
標準	標準的な Workstation 機能をインストールします。Visual Studio または Eclipse 用統合仮想デバッガがホストシステムに存在する場合は、関連する Workstation プラグインがインストールされます。
カスタム	インストールする Workstation 機能を選択して、インストール先を指定できます。共有仮想マシン ディレクトリや VMware Workstation Server のポートを変更したり、拡張仮想キーボード ドライバをインストールしたりする場合にこのオプションを選択します。拡張仮想キーボード ドライバは、各国語対応のキーボードや特殊なキーを持つキーボードを適切に処理します。

- プロンプトに従ってアップグレードを完了します。

設定によっては、インストールの完了後にホストシステムの再起動が必要となる場合があります。

Workstation のアップグレードが完了し、ホストシステムを再起動すると VMware Workstation Server サービスが起動します。VMware Workstation Server サービスは、ホストシステムの再起動のたびに起動します。

次に進む前に

最新機能を使用するには、既存の仮想マシンを新しいバージョンの Workstation にアップグレードする必要があります。[\[仮想マシンのハードウェア互換性の変更 \(P. 26\)\]](#) を参照してください。

以前のバージョンの Workstation で、仮想ネットワークを特定の物理アダプタまたは仮想アダプタにマップするブリッジ設定を使用していた場合は、マッピングを作成し直します。以前のバージョンの Workstation で作成したチームは、新しいバージョンの Workstation で使用できるように変換します。詳細については、[\[VMware Workstation の使用方法\]](#) を参照してください。

Linux ホスト上での Workstation のアップグレード

Linux ホストシステムで Workstation 4、5.x、6.x、または 7.x から最新バージョンの Workstation にアップグレードするには、Linux の Workstation 用バンドル インストーラを実行します。ほとんどの Linux ディストリビューションでは、Linux バンドル インストーラを実行すると GUI ウィザードが起動されます。Red Hat Enterprise Linux 5.1 など一部の Linux ディストリビューションでは、GUI ウィザードではなくコマンドライン ウィザードがバンドル インストーラによって起動されます。--console オプションを使用してインストーラを実行すると、ターミナル ウィンドウで Workstation をアップグレードできます。

リモート接続および仮想マシンの共有は、Workstation をアップグレードするとデフォルトで有効になります。リモート接続を有効にすると、リモート ホストに接続してリモート仮想マシンを実行できます。仮想マシンの共有を有効にすると、他の Workstation インスタンスからリモートでアクセス可能な仮想マシンを作成できます。

共有仮想マシンは、VMware Workstation Server (`vmware-workstation-server`) が管理する共有仮想マシン ディレクトリに格納されます。リモート ユーザーは、ホスト システムの HTTPS ポート 443 を介して VMware Workstation Server に接続されます。

アップグレード時に共有仮想マシン ディレクトリを変更したり、他のポートを選択したりするには、`--custom` オプションを指定する必要があります。Workstation のアップグレード後に共有 VMs Workstation 環境設定を変更することにより、共有仮想マシン ディレクトリの変更、別のポートの選択、リモート接続および仮想マシンの共有の無効化を実行できます。詳細については、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

開始する前に

- ホストシステムがホストシステムの要件を満たすことを確認します。[「ホストシステムの要件 \(P. 7\)」](#)を参照してください。
- ライセンス キーが手元にあることを確認してください。
- アップグレードを準備します。[「アップグレードを開始する前に \(P. 22\)」](#)を参照してください。
- Linux コマンドライン インストール オプションについて理解しておく必要があります。一部の構成設定の指定には `--custom` オプションを使用する必要があります。[「Linux コマンドラインインストール オプション \(P. 21\)」](#)を参照してください。
- ホストシステムへの root アクセス権があることを確認します。

手順

- 1 Workstation を実行するときに使用するユーザー名でホスト システムにログインします。
- 2 root に切り替えます。
例：`su root`
使用するコマンドは、Linux ディストリビューションおよび構成によって異なります。
- 3 インストール メディアから Workstation をアップグレードする場合は、Workstation のインストール メディアをマウントします。
- 4 Workstation インストーラ ファイルがあるディレクトリに移動します。

オプション	説明
ソフトウェアを CD からインストールする	インストーラ ファイルは Linux ディレクトリにあります。
ダウンロードしたソフトウェアを使用する	インストーラ ファイルはダウンロード ディレクトリにあります。

- 5 ホストシステムに対応する Workstation インストーラを実行します。
例：`sh VMware-Workstation-
<xxxx-xxxx>.<architecture>.bundle [--<option>]`
`<xxxx-xxxx>` はバージョン番号とビルド番号、`<architecture>` は i386 または x86_64、`<option>` はコマンドライン オプションです。
- 6 Open Virtualization Format (OVF) Tool のライセンス契約に同意します。
`--console` オプションを使用している場合、または GUI ウィザードをサポートしないホスト システムに Workstation をインストールしている場合は、`<Enter>` キーを押してスクロールしながらライセンス契約を読むか、`q` を入力して `[[yes/no]]` プロンプトにスキップします。
- 7 プロンプトに従ってインストールを完了します。

Workstation がアップグレードされると、ホスト システムで `vmware-workstation-server` が起動します。ホスト システムを再起動すると、`vmware-workstation-server` が起動します。

次に進む前に

最新機能を使用するには、既存の仮想マシンを新しいバージョンの Workstation にアップグレードする必要があります。[\[仮想マシンのハードウェア互換性の変更 \(P. 26\)\]](#) を参照してください。

以前のバージョンの Workstation で、仮想ネットワークを特定の物理アダプタまたは仮想アダプタにマップするブリッジ設定を使用していた場合は、マッピングを作成し直します。以前のバージョンの Workstation で作成したチームは、新しいバージョンの Workstation で使用できるように変換します。詳細については、[\[VMware Workstation の使用方法\]](#) を参照してください。

仮想マシンのハードウェア互換性の変更

仮想マシンのハードウェアの互換性を変更できます。すべての仮想マシンに対してハードウェアのバージョンが設定されています。ハードウェアのバージョンは、BIOS または EFI、仮想スロット数、最大 CPU 数、最大メモリ構成、およびその他のハードウェア特性など、仮想マシンがどの仮想ハードウェア機能をサポートするかを表します。

Workstation をアップグレードする際、新しいバージョンの Workstation で提供される新機能を使用できるようにするために、以前のバージョンの Workstation で作成した仮想マシンのハードウェアの互換性を変更する必要があります。古いバージョンの仮想マシンは新しいバージョンの Workstation で実行できますが、新機能を活用することはできません。

現在使用している他の VMware 製品との互換性を保持するために、ハードウェアの互換性を最新の Workstation のバージョンに変更しない場合があります。各 VMware 製品間での互換性についての情報は、[\[VMware 仮想マシン モビリティ プラン ガイド\]](#) を参照してください。

注意 仮想マシンのハードウェアの互換性を変更しない場合でも、VMware Tools を最新のバージョンにアップグレードして VMware Tools の最新機能を使えるようにすることをお勧めします。

開始する前に

仮想マシンのハードウェアの互換性を変更するときの注意事項や制限事項について理解しておく必要があります。[\[仮想マシンのハードウェアの互換性を変更する際の注意事項 \(P. 27\)\]](#) を参照してください。

手順

- 1 仮想ディスク (.vmdk) ファイルのバックアップ コピーを作成します。
- 2 Workstation 4 または 5.x 仮想マシンからアップグレードする場合、または Workstation 4 または 5.x 仮想マシンにダウングレードする場合は、ゲスト OS の NIC 設定を控えておきます。
仮想マシンに固定 IP アドレスを指定している場合は、アップグレード後は DHCP により IP アドレスが自動的に割り当てられるように設定が変更されることがあります。
- 3 ゲスト OS をシャットダウンしてから仮想マシンをパワーオフにします。
- 4 仮想マシンを選択して、[VM] - [管理] - [ハードウェアの互換性を変更] を選択します。
- 5 ウィザードのプロンプトに従って、仮想マシンのハードウェアの互換性を変更します。
ハードウェアの互換性設定を選択すると、その設定と互換性のある VMware 製品のリストが表示されます。また、Workstation 4、5、または 6 を選択すると、その Workstation ではサポートされない Workstation 6.5 以降の機能のリストも表示されます。
- 6 仮想マシンをオンにします。
Windows 98 オペレーティングシステムがインストールされている仮想マシンを Workstation 6.5 または 7.x 仮想マシンにアップグレードする場合は、仮想マシンをパワーオンするときに PCI-PCI ブリッジ ドライバをインストールする必要があります。

注意 Workstation 6.5 以降のバージョンでは、PCI-PCI ブリッジが Workstation 6 より 32 個多いため、プロンプトに 32 または 33 回応答する必要があります。

- 7 ゲスト OS の NIC 設定が変更されている場合は、控えておいた NIC 設定を使って元の設定に戻してください。

- 8 仮想マシンに最新バージョンの VMware Tools がインストールされていない場合は、VMware Tools を更新します。
- 仮想マシンを以前のバージョンの Workstation にアップグレードする場合でも、最新バージョンの Workstation で提供される VMware Tools のバージョンにアップデートする必要があります。新しいバージョンをインストールする前に、旧バージョンの VMware Tools を削除しないでください。

注意 物理ディスクから実行する仮想マシンをアップグレードしようとする、[<ドライブ名> をアップグレードすることができません。パラメータの 1 つが無効です] といった内容のエラーメッセージが表示されることがありますが、このメッセージは無視してください。

仮想マシンのハードウェアの互換性を変更する際の注意事項

仮想マシンのハードウェアの互換性を変更する前に、いくつかの注意事項や制限事項について理解しておく必要があります。

- Workstation 5.x、6、6.5、7.x およびそれ以降の仮想マシンでは、元の仮想マシンのバージョンを変更するか、または完全クローンを作成するかを選択できます。完全クローンを作成する場合、元の仮想マシンはそのままの状態が残されます。Workstation 4 の仮想マシンでは、Workstation は元の仮想マシンを変更します。
- ESX Server と互換性のある Workstation 4 または 5.x の仮想マシンを Workstation 6、6.5、7.x またはそれ以降にアップグレードした場合、後で [ハードウェアの互換性を変更] ウィザードを使用して ESX 互換の仮想マシンに再度ダウングレードすることはできません。
- Windows XP、Windows Server 2003、Windows Vista、または Windows 7 で作成した仮想マシンをアップグレードする場合は、Microsoft プロダクト アクティベーション機能によりゲスト OS のアクティベーションを再度行うように求められる場合があります。
- 共有仮想マシンやリモート仮想マシンのハードウェアの互換性は変更できません。

Workstation のアンインストール

Windows ホストから Workstation をアンインストールするには、Windows のセットアッププログラムを使用します。Linux ホストから Workstation をアンインストールするには、バンドル インストーラを実行します。

Windows ホストからの Workstation のアンインストール

Windows ホストシステムから Workstation をアンインストールするには、Windows セットアッププログラムを実行します。

手順

- 1 Administrator ユーザーまたはローカルの Administrators グループのメンバーとして、Windows ホストシステムにログインします。
ドメインにログインする場合、ドメイン アカウントもローカル管理者である必要があります。
- 2 Workstation CD が手元にある場合は、ホストシステムの CD-ROM ドライブに CD を挿入します。
自動実行が有効の場合は、インストール プログラムが開始します。
- 3 自動再生が有効になっていない場合、またはインストール ソフトウェアをダウンロードした場合は、セットアップ ファイルをダブルクリックします。
Workstation CD を使用する場合、セットアップ ファイルは **setup.exe** という名前です。インストール ソフトウェアをダウンロードした場合、セットアップ ファイルには **VMware-workstation-<xxxx-xxxx>.exe** のようなファイル名が付けられています。<xxxx-xxxx> にはバージョン番号とビルド番号を表す数字が入ります。
- 4 ようこそ画面で [次へ] クリックしてから [削除] をクリックします。
- 5 (オプション) 製品ライセンスおよび Workstation の構成情報を保存するには、該当するチェック ボックスを選択します。
- 6 [次へ] をクリックして Workstation のアンインストールを開始します。

Linux ホストからの Workstation のアンインストール

Workstation を Linux ホストからアンインストールするには、コマンドを実行する必要があります。

開始する前に

ホスト システムへの root アクセス権があることを確認します。

手順

- 1 Workstation を実行するときに使用するユーザー名で Linux ホスト システムにログインします。
- 2 root に切り替えます。
例：`su root`
使用するコマンドは、Linux ディストリビューションおよび構成によって異なります。
- 3 ターミナル ウィンドウで、`vmware-installer -u vmware-workstation` を入力します。
- 4 [次へ] をクリックして Workstation のアンインストールを開始します。

Workstation の起動

Workstation の起動方法は、ホスト システムのプラットフォームと、Workstation のインストール時に選択したオプションに応じて変わります。

Windows ホストシステムでは、[スタート] メニュー項目に加えて、デスクトップショートカット、クイック起動ショートカット、またはその両方を使用できます。

Linux ホストシステムでは、コマンドラインから Workstation を起動します。Red Hat Enterprise Linux 5.1 など一部の Linux ディストリビューションでは、[アプリケーション] の [システム ツール] メニューからも Workstation を起動できます。

手順

- Windows ホストシステムで Workstation を起動するには、[スタート] - [プログラム] - [VMware] - [VMware Workstation] を選択します。
- Linux ホストシステムで Workstation を起動するには、ターミナル ウィンドウでコマンド `vmware` を入力します。

オプション	コマンド
<code>/usr/bin</code> がデフォルトのパスにある	<code>vmware &</code>
<code>/usr/bin</code> がデフォルトのパスにない	<code>/usr/bin/vmware &</code>

Workstation の初回起動時は、エンド ユーザー ライセンス基本契約書に対する同意を求めるプロンプトが表示されます。Workstation の起動後、Workstation ウィンドウが開きます。

Workstation ウィンドウの使用

仮想マシンは、ホスト システムの画面上で実行される別のコンピュータと同様です。Workstation が表示できるのは、別のコンピュータのスクリーンだけではありません。Workstation ウィンドウから仮想マシンにアクセスし、実行することが可能です。また、仮想マシンから別の仮想マシンへの切り替えも容易な操作で実行できます。

Workstation の使用方法を学ぶ最良の方法は、まず試してみることです。Workstation ウィンドウは、直感的で使いやすくなっています。

- [Workstation ウィンドウでの仮想マシンの使用](#) (P. 29)
Workstation ウィンドウを使用して、仮想マシンを操作できます。

- [仮想マシン ライブラリの使用 \(P. 30\)](#)
仮想マシン ライブラリは、Workstation ウィンドウの左側に表示されます。ライブラリを使用して、Workstation の仮想マシン、フォルダ、リモート ホストを表示、選択します。ライブラリは、デフォルトで表示されます。
- [サムネイル バーの使用 \(P. 30\)](#)
サムネイル バーは、Workstation ウィンドウの下部に表示されます。
- [ステータス バーの使用 \(P. 31\)](#)
ステータス バーは、Workstation ウィンドウの下部に表示されます。ステータス バーにあるアイコンを使用して、Workstation のメッセージを表示したり、ハード ディスク、CD/DVD ドライブ、フロッピー ドライブ、ネットワーク アダプタなどのデバイスを操作したりできます。ステータス バーはデフォルトで表示されます。
- [Workstation タブの使用 \(P. 31\)](#)
ライブラリの項目を選択すると、Workstation ウィンドウの右ペインにタブが作成されます。タブは、デフォルトで表示されます。
- [Workstation ウィンドウのカスタマイズ \(P. 31\)](#)
[表示] メニューから項目を選択して、Workstation ウィンドウの外観をカスタマイズできます。
- [ホット キーの組み合わせ \(P. 32\)](#)
キーボード ショートカットを使用して、Workstation および仮想マシンを操作できます。Workstation で使用できるほとんどのキーボード ショートカットは、Workstation のメニューで関連するコマンドの横に表示されています。

Workstation ウィンドウでの仮想マシンの使用

Workstation ウィンドウを使用して、仮想マシンを操作できます。

手順

- [ホーム] タブにあるアイコンを使用して、新しい仮想マシンを作成したり、既存の仮想マシンを開いたり、Workstation のヘルプシステムを表示したりできます。
- ライブラリでパワーオフ状態の仮想マシンを選択するか、そのタブをクリックすると、仮想マシンの概要ビューが表示されます。

概要ビューには、構成情報の概要と仮想マシンの状態が表示されます。概要ビューから、仮想マシンのパワーオンおよび仮想マシンの設定の編集を実行できます。
- ライブラリでアクティブな仮想マシンを選択するか、そのタブをクリックすると、コンソールビューが表示されます。

コンソールビューは、物理コンピュータのモニタ表示に似ています。ツールバーにある [コンソールビュー] ボタンをクリックすることで、コンソールビューと概要ビュー間を切り替えることができます。
- ライブラリで仮想マシンを選択して、Workstation ウィンドウの上部のメニューバーにある [VM] メニューを使用することで、選択した仮想マシンのすべての操作を実行できます。

[VM] メニューは、仮想マシンがパワーオンまたはパワーオフ状態のときに使用できます。仮想マシンの現在の状態でサポートされていない操作の場合は、そのメニュー項目を使用できません。
- ライブラリで仮想マシンを選択して、Workstation ウィンドウの上部のツールバーにあるボタンを使用することで、選択した仮想マシンの一般的な操作と表示の変更を実行できます。

ツールバーにあるボタンでは、スナップショットの作成と管理、フルスクリーンモードとユニティモードの開始、複数のモニタのサイクル、およびコンソールビューと概要ビュー間の切り替えを実行できます。

- 仮想マシンがパワーオン状態の場合、Workstation ウィンドウの下部のステータス バーにあるアイコンを使用して、Workstation のメッセージを表示したり、CD/DVD ドライブ、フロッピー ドライブ、ネットワーク アダプタなどの仮想デバイスを操作したりできます。
取外し可能デバイスのアイコンをクリックまたは右クリックすることで、デバイスの接続または切断を実行したり、デバイスの設定を編集したりできます。[メッセージ ログ] アイコンをクリックすると、メッセージ ログが表示されます。メッセージには、仮想マシンに関する警告情報が含まれます。アイコンの表示が薄いときは、すべてのメッセージが既読であることを表します。
- ライブラリ内のアイテムを選択するか、タブをクリックすることで、仮想マシン、フォルダ、リモート ホスト間の切り替えをすばやく実行できます。

仮想マシン ライブラリの使用

仮想マシン ライブラリは、Workstation ウィンドウの左側に表示されます。ライブラリを使用して、Workstation の仮想マシン、フォルダ、リモート ホストを表示、選択します。ライブラリは、デフォルトで表示されます。

開始する前に

ライブラリが表示されていない場合、[表示] - [カスタマイズ] - [ライブラリ] を選択します。

手順

- ライブラリの仮想マシン、フォルダ、リモート ホストを右クリックしてコンテキスト メニューを表示し、一般的な操作を実行します。
- ライブラリの特定の仮想マシンを検索するには、検索ボックスに名前、説明の一部、ゲスト OS 名を入力します。
たとえば、ゲスト OS が Windows 7 の仮想マシンをすべて検索するには、**Windows 7** と入力します。フォルダおよびリモート ホストも検索できます。
- ライブラリの仮想マシンまたはフォルダをお気に入りとしてマークするには、仮想マシンまたはフォルダを右クリックして [お気に入りとしてマーク] を選択するか、星のアイコンをクリックします。
- パワーオンされている仮想マシンまたはお気に入り項目のみを表示するには、ライブラリのドロップダウン メニューを使用します。
デフォルトでは、ライブラリにはすべての項目が表示されます。
- ライブラリから項目を削除するには、項目を右クリックして [削除] を選択します。

サムネイル バーの使用

サムネイル バーは、Workstation ウィンドウの下部に表示されます。

アクティブな仮想マシンの場合、Workstation はサムネイルをリアルタイムでアップデートし、仮想マシンの現時点の内容を示します。仮想マシンがサスペンドされた状態の場合、サムネイルは、仮想マシンがサスペンドされた時点のスクリーンショットを示します。

開始する前に

サムネイル バーが表示されていない場合、[表示] - [カスタマイズ] - [サムネイル バー] を選択します。

手順

- サムネイルをクリックして、仮想マシンの概要ビューまたはコンソール ビューを表示できます。
- サムネイルをクリックして、仮想マシンから別の仮想マシンへすばやく切り替えることができます。
- サムネイルの順序を変更するには、仮想マシンのタブの順序を変更します。

サムネイルは、仮想マシンのタブと同じ順序で表示されます。仮想マシンのタブを移動するには、新しい場所にドラッグアンド ドロップします。

- サムネイルバーに表示される仮想マシンを変更するには、サムネイルバー ドロップダウン メニューから [仮想マシンを開く] または [仮想マシンのフォルダ表示] を選択します。

ドロップダウン メニューは、サムネイルバーの下矢印をクリックすると表示されます。

ステータス バーの使用

ステータスバーは、Workstation ウィンドウの下部に表示されます。ステータスバーにあるアイコンを使用して、Workstation のメッセージを表示したり、ハードディスク、CD/DVD ドライブ、フロッピー ドライブ、ネットワークアダプタなどのデバイスを操作したりできます。ステータスバーはデフォルトで表示されます。

手順

- ステータスバーにあるアイコンの上にマウスポインタを移動すると、その名前が表示されます。
- 取外し可能デバイスのアイコンをクリックまたは右クリックすることで、デバイスの接続または切断を実行したり、デバイスの設定を編集したりできます。
- メッセージログアイコンをクリックすると、メッセージログが表示されます。
メッセージには、仮想マシンに関する警告情報が含まれます。アイコンの表示が薄いときは、すべてのメッセージが既読であることを表します。

Workstation タブの使用

ライブラリの項目を選択すると、Workstation ウィンドウの右ペインにタブが作成されます。タブは、デフォルトで表示されます。

手順

- [ホーム] タブのリンクを使用して、仮想マシンを作成したり、仮想マシンを開いたり、リモートサーバに接続したり、物理マシンを仮想化したり、仮想ネットワークエディタを使用したり、Workstation の環境設定をカスタマイズしたり、ソフトウェアアップデートをダウンロードしたり、ヘルプシステムを表示したりします。
- 仮想マシンのタブを使用して、仮想マシンの構成情報を表示したり、仮想マシンのハードウェアおよびオプション設定を変更したり、仮想マシンの説明を作成または変更したりできます。
- [共有 VM] タブを使用して、ホストシステムのすべての共有仮想マシンの情報を表示できます。
- リモートホストのタブを使用して、リモートホストの CPU、メモリ、ディスクの使用状況などの情報、リモートホストで実行する仮想マシンおよび仮想マシンのタスクを参照できます。
- タブを閉じるには、[ファイル] - [タブを閉じる] を選択します。

Workstation ウィンドウのカスタマイズ

[表示] メニューから項目を選択して、Workstation ウィンドウの外観をカスタマイズできます。

手順

- 1 [表示] - [カスタマイズ] を選択して、Workstation のウィンドウ表示を選択します。

オプション	説明
ライブラリ	ウィンドウの左側に仮想マシンライブラリが表示されます。ライブラリを使用して、Workstation の仮想マシン、フォルダ、リモートホストを表示、選択できます。ライブラリは、デフォルトで表示されます。
サムネイルバー	サムネイルバーは、ウィンドウの下部に表示されます。選択されたサムネイルバーオプションによって、サムネイルバーには開いているすべての仮想マシンまたは選択したフォルダ内の仮想マシンが表示されます。
ツールバー	ツールバーは、ウィンドウの上部に表示されます。ツールバーのアイコンを使用して、仮想マシンの開始および終了、スナップショットの作成、表示の変更など、一般的なタスクを実行できます。ツールバーはデフォルトで表示されます。

オプション	説明
ステータス バー	ステータス バーは、仮想マシンが選択されている場合にウィンドウの下部に表示されます。ステータス バーにあるアイコンを使用して、Workstation のメッセージを表示したり、ハード ディスク、CD/DVD ドライブ、フロッピー ドライブ、ネットワーク アダプタなどの仮想マシン デバイスを操作したりできます。ステータス バーはデフォルトで表示されます。
タブ	ライブラリの項目を選択すると、Workstation の右ペインにタブが作成されます。タブは、デフォルトで表示されます。

- 2 サムネイル バーに表示する仮想マシンを指定するには、[表示] - [カスタマイズ] - [サムネイル バーのオプション] を選択します。

オプション	説明
開いている仮想マシン	サムネイル バーには、開いているすべての仮想マシンのサムネイルが表示されます。
仮想マシンのフォルダ表示	サムネイル バーには、選択したフォルダ内の仮想マシンのサムネイルが表示されます。

ホット キーの組み合わせ

キーボード ショートカットを使用して、Workstation および仮想マシンを操作できます。Workstation で使用できるほとんどのキーボード ショートカットは、Workstation のメニューで関連するコマンドの横に表示されています。

表 2-4. ホット キーの組み合わせ

ショートカット	操作
<Ctrl> + G	キーボードおよびマウスの入力を有効にします。
<Ctrl> + <Alt>	マウス カーソルを解放します。
<Ctrl> + <Alt> + <Insert>	ゲスト OS のシャットダウン、またはゲスト OS の種類によってはログオフ。このコマンドは、仮想マシンだけで認識されます。
<Ctrl> + <Alt> + <Delete>	ゲスト OS のシャットダウン、またはオペレーティング システムの種類によってはログオフ。 Windows ホストで拡張仮想キーボード機能を使用しない場合は、Workstation が入力先になっている場合でも、このコマンドはホスト OS と仮想マシンの両方で認識されます。ホスト OS のセッション終了画面をキャンセルしてから仮想マシンに戻り、ログオフまたはシャットダウンするか、あるいは管理タスクを実行します。
<Ctrl> + <Alt> + <Enter>	フル スクリーン モードを開始します。
<Ctrl> + <Alt> + スペース バー	すべてのコマンドを仮想マシンに送信し、Workstation では処理しません。<Ctrl> + <Alt> を押したままスペースバーを押して放し、そのまま <Ctrl> + <Alt> キーを押しながら組み合わせの次のキーを押します。
<Ctrl> + <Tab> <Ctrl> + <Shift> + <Tab>	(Windows ホストのみ) タブ間を切り替えます。
<Ctrl> + <Alt> + 右方向 キー	フル スクリーン モードで、パワーオン状態の次の仮想マシンに切り替えます。
<Ctrl> + <Alt> + 左方向 キー	フル スクリーン モードで、1 つ前のパワーオン状態の仮想マシンに切り替えます。
<Ctrl> + <Shift> + U	ユニティ モードで、仮想マシンの [スタート] または [アプリケーション] メニューにアクセスします。ユニティ環境設定を変更して、ユニティ ホットキーの組み合わせを変更できます。

Workstation 環境設定を変更して、デフォルトのホット キーの組み合わせを変更できます。ホットキーの設定を変更する場合は、<Ctrl> + <Alt> を新しいホットキーの組み合わせで置き換えてください。たとえば、仮想マシンの一般的な操作のホットキーの組み合わせを <Ctrl> + <Shift> に変更した場合、<Ctrl> + <Alt> ではなく <Ctrl> + <Shift> を押して現在の仮想マシンからコントロールを解放します。

デフォルトのホットキーの組み合わせの変更については、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

Workstation のオンライン ヘルプの使用

Workstation のオンライン ヘルプは、Workstation の設定と一般的なタスクに関する情報を提供します。オンライン ヘルプを使うと、Workstation の環境設定や仮想ハードウェアの設定、仮想マシンのオプションに関する情報をすばやく入手できます。

たとえば、仮想マシンを構成中に特定のハードウェアの設定に関する情報が必要になった場合は、その設定のダイアログボックスにある [ヘルプ] をクリックします。ヘルプウィンドウが開いて関連するヘルプトピックが右側のパネルに表示されます。ヘルプシステム全体を表示するには、[ヘルプ] - [ヘルプトピック] を選択するか (Windows ホストの場合)、[ヘルプ] - [目次] (Linux ホストの場合) を選択します。

仮想マシンの作成

通常、Workstation で仮想マシンを作成するときは[新規仮想マシン] ウィザードを使用します。[新規仮想マシン] ウィザードのオプションで標準構成を選択すると、最小限のステップで仮想マシンを作成できます。

Workstation では、さらに、既存の仮想マシンまたは仮想マシン テンプレートを基にした仮想マシンのクローン作成、OVF (Open Virtualization Format) およびサードパーティの仮想マシンのインポート、リモートの Workstation ユーザーが使用できる仮想マシンの作成、およびリモート ホスト上での仮想マシン作成が可能です。これらの高度な機能については、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [仮想マシンの概要 \(P. 35\)](#)
- [標準的な仮想マシンの機能 \(P. 36\)](#)
- [標準的な仮想マシン作成の準備 \(P. 36\)](#)
- [標準的な仮想マシンの作成 \(P. 40\)](#)
- [簡易インストールによる ゲスト OS のインストール \(P. 42\)](#)
- [ゲスト OS の手動インストール \(P. 42\)](#)
- [VMware Tools のインストールとアップグレード \(P. 43\)](#)
- [仮想マシンへの新規ソフトウェアのインストール \(P. 52\)](#)

仮想マシンの概要

仮想マシンは、物理マシン同様にオペレーティングシステムおよびアプリケーションを実行するソフトウェア コンピュータです。仮想マシンは、仮想マシンが実行される物理マシンの物理リソースを使用します。物理マシンをホストシステムと呼びます。仮想マシンには物理ハードウェアと同じ機能を提供する仮想デバイスが含まれ、さらに移植性、管理性、セキュリティに優れています。

仮想マシンのオペレーティングシステムおよび仮想リソースは、物理コンピュータとほぼ同じ方法で管理します。たとえば、仮想マシンのオペレーティングシステムは、物理コンピュータのオペレーティングシステムと同じ方法でインストールします。オペレーティングシステム ベンダーからインストール ファイルが含まれる CD-ROM、DVD、ISO イメージを入手する必要があります。

標準的な仮想マシンの機能

[新規仮想マシン] ウィザードのオプションで標準構成を選択すると、特定のハードウェア機能とソフトウェア機能を持つ仮想マシンが Workstation によって作成されます。仮想マシンが作成された後は、仮想マシンの設定を修正することでさまざまな機能を変更できます。

共有仮想マシンおよびリモート ホストに作成される仮想マシンは、ローカル ホスト システム上に作成される仮想マシンとは異なる機能を持っています。共有仮想マシンとリモート仮想マシンの作成についての詳細は、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

ハードウェア機能

標準的な仮想マシンのハードウェア機能は、次のとおりです。

- 仮想マシンのハードウェアの互換性は、Workstation の環境設定で構成されたデフォルトのハードウェアの互換性設定と同じです。デフォルトでは、デフォルトのハードウェアの互換性設定はインストールされている Workstation のバージョンです。
- 単一プロセッサおよびコアあたり 1 つのプロセッサ。Workstation が使用する仮想化エンジンの実行モードはゲスト OS と ホスト CPU に基づいて選択されます。
- 1 台の IDE CD/DVD ドライブ。パワーオン時に接続され、ホスト システム上の物理ドライブを自動検出するように構成されます。
- 1 台のフロッピー ドライブ。パワーオン時に接続され、ホスト システム上の物理ドライブを自動検出するように構成されます。
- 1 つの仮想ネットワーク アダプタ。パワーオン時に接続され、ネットワーク アドレス変換 (NAT) を適用するように構成されます。ネットワークに NAT を適用すると、仮想マシンはホスト システムと共通の IP アドレスを使用します。
- 1 つの USB コントローラ。
- 1 枚のサウンドカード。ホスト システムのデフォルトのサウンドカードを使用するように構成されます。
- 1 つのディスプレイ。ホスト コンピュータのディスプレイ設定を使用するように構成されます。

仮想マシンを作成するときに選択するオプションによって、仮想マシンに割り当てられるメモリ量、仮想ディスクのサイズ、および仮想ディスクを複数の仮想ディスク ファイルに分割するかどうかが決まります。

ソフトウェア機能

標準的な仮想マシンのソフトウェア機能は、次のとおりです。

- ドラッグアンドドロップ機能とカットアンドペースト機能が利用できます。
- 共有フォルダおよび VNC クライアントからのリモート アクセスは無効化されています。
- 仮想マシンは暗号化されていません。
- VMware Tools は手動でアップデートする必要があります。

標準的な仮想マシン作成の準備

[新規仮想マシン] ウィザードのオプションで標準構成を選択するときは、仮想マシンのいくつかの基本設定を指定するか、デフォルトを使用する必要があります。

- ゲスト OS のインストール方法
- 仮想マシン名および仮想マシン ファイルの場所
- 仮想ディスクのサイズおよびディスクを複数の仮想ディスク ファイルに分割するかどうか

- ハードウェア設定をカスタマイズするかどうか

標準的な仮想マシンを作成後、デバイスを追加し、カスタム ネットワーク接続を設定できます。

- [ゲスト OS の選択 \(P. 37\)](#)

[新規仮想マシン] では、仮想マシンの内部で実行するオペレーティングシステムのソース メディアを選択するよう求めるプロンプトが表示されます。物理ドライブに挿入されたインストーラ ディスクまたは ISO イメージ ファイルを指定できます。または[新規仮想マシン] ウィザードによって未使用のハード ディスクを持つ仮想マシンを作成することもできます。

- [仮想マシン名とファイルの場所の指定 \(P. 39\)](#)

[新規仮想マシン] ウィザードで、仮想マシン名と仮想マシン ファイルのディレクトリの入力を求めるプロンプトが表示されます。

- [仮想マシンのディスク容量の指定 \(P. 39\)](#)

[新規仮想マシン] ウィザードで、カスタム構成中に新しい仮想ディスクを作成するように指示すると、仮想ディスクのサイズを設定し、ディスクを複数の仮想ディスク (.vmdk) ファイルに分割するかどうかを指定するよう求めるプロンプトが表示されます。

- [仮想マシンのハードウェアのカスタマイズ \(P. 40\)](#)

[新規仮想マシン] ウィザードの最後のページで [ハードウェアをカスタマイズ] をクリックして、仮想マシンのハードウェアをカスタマイズできます。

- [標準仮想マシン作成のワークシート \(P. 40\)](#)

このワークシートを印刷して、標準仮想マシンの作成時に指定する値を記入できます。

ゲスト OS の選択

[新規仮想マシン] では、仮想マシンの内部で実行するオペレーティングシステムのソース メディアを選択するよう求めるプロンプトが表示されます。物理ドライブに挿入されたインストーラ ディスクまたは ISO イメージ ファイルを指定できます。または[新規仮想マシン] ウィザードによって未使用のハード ディスクを持つ仮想マシンを作成することもできます。

インストーラ ディスクまたは ISO イメージ ファイルを選択し、オペレーティングシステムが簡易インストールをサポートしている場合、ゲスト OS が自動的にインストールされ、VMware Tools もインストールされます。インストーラ ディスクまたは ISO イメージ ファイルに製品キー コードが含まれ、すでに自動インストールを実行するように設定済みの場合、簡易インストール機能を使用する唯一のメリットは、VMware Tools が自動的にインストールされることです。

注意 リモート仮想マシンの場合、インストーラ ディスクまたは ISO イメージ ファイルを選択する前に、物理ドライブまたは ISO イメージ ファイルがローカル ホストまたはリモート ホストのどちらにあるかを指定する必要があります。

[新規仮想マシン] ウィザードによって未使用のハードディスクを持つ仮想マシンを作成する場合、オペレーティングシステムとバージョンを指定するよう求めるプロンプトが表示されます。仮想マシンを作成した後、ゲスト OS を手動でインストールする必要があります。Workstation はこの情報を使用して、適切なデフォルト値と仮想マシンに関連するファイル名を設定し、パフォーマンス設定を調整し、ゲスト OS の特有の動作やバグに対応します。使用するオペレーティングシステムがウィザードのリストにない場合は、オペレーティングシステムとバージョンの両方に [その他] を選択します。

簡易インストールをサポートしているオペレーティングシステムを簡易インストールを使用せずにインストールする場合には、ウィザードに未使用のディスクを持つ仮想マシンを作成するように指示し、ゲスト OS を手動でインストールすることができます。

簡易インストールをサポートしているオペレーティングシステム

Windows および Linux オペレーティング システムの一部のバージョンでは、簡易インストールが利用できます。

表 3-1. 簡易インストールをサポートしているオペレーティング システム

ゲスト OS	サポートされるバージョン
Windows	Windows Vista Windows 7 Windows XP Windows 2000 Windows Server 2008 Windows Server 2003 Windows Server 2000
Linux	Ubuntu Desktop 7.10 以降 Ubuntu Server 8.10 以降 Red Hat Enterprise Linux 3 から 5 Asianux Server 3 Fedora Core 4 ~ 12 (Fedora Core 8 は除く) SUSE Linux Enterprise Server 10 SP3 SUSE Linux Enterprise Desktop 10 SP3 SUSE Linux Enterprise Server 11 GA SUSE Linux Enterprise Desktop 11 GA openSUSE 11.3 GA

簡易インストール情報の提供

[新規仮想マシン] ウィザードが簡易インストールをサポートしているオペレーティング システムを検出すると、ゲスト OS に関する情報がプロンプトに表示されます。仮想マシン作成後にゲスト OS が自動的にインストールされ、VMware Tools もインストールされます。

Windows ゲスト OS では、次の簡易インストール情報を提供する必要があります。

表 3-2. Windows ゲストの簡易インストール情報

簡易インストール プロンプト	説明
[Windows プロダクト キー]	(オプション) 製品キーは、インストール メディアにボリューム ライセンス製品キーが含まれている場合を除いて入力してください。ここで製品キーを入力すると、ゲスト OS をインストールするときには製品キーの入力を求めるプロンプトは表示されません。
[インストールする Windows のバージョン]	Windows Vista、Windows 7、および Windows Server 2008 ゲスト OS では、オペレーティング システムのエディションを選択します。
[フル ネーム]	ゲスト OS の登録に使用する名前。Administrator または Guest という名前は使用しないでください。これらの名前を使用すると、ゲスト OS のインストール時には異なる名前を入力する必要があります。
[パスワード]	(オプション) Windows 2000 を除く Windows OS では Administrator アクセス権を持つアカウントに使用するパスワード。Windows 2000 では、これは Administrator アカウントのパスワードになります。Windows XP Home では、パスワードのない Administrator アカウントが作成され、ゲスト OS に自動的にログインします。
[自動的にログオン (パスワードが必要)]	(オプション) ログイン認証情報を保存し、仮想マシンをパワーオンしたときのログイン ダイアログ ボックスを省略します。この機能に使用する名前とパスワードを入力する必要があります。

Linux ゲスト OS では、次の簡易インストール情報を提供する必要があります。

表 3-3. Linux ゲストの簡易インストール情報

プロンプト	説明
[フルネーム]	登録が必要な場合、ゲスト OS の登録に使用する名前。Workstation では、名（ファーストネーム）が仮想マシンのホスト名として使用されます。
[ユーザー名]	ユーザー名。小文字、数字、ダッシュ記号を使用できます。ただし、ユーザー名の先頭文字にダッシュ記号を使用しないでください。root という名前は使用しないでください。オペレーティングシステムによっては、このユーザーに sudo アクセス権が設定されます。このユーザーに root 権限を割り当てるときは、su を使用する必要がある場合もあります。
[パスワード]	[ユーザー名] および root ユーザーのパスワード。

仮想マシン名とファイルの場所の指定

[新規仮想マシン] ウィザードで、仮想マシン名と仮想マシン ファイルのディレクトリの入力を求めるプロンプトが表示されます。

仮想マシン ファイルのデフォルトのディレクトリの名前は、Microsoft Windows 7 (32-bit) などのように、ゲスト OS の名前から導出されます。

標準の仮想マシンでは、仮想マシン ファイルのデフォルトのディレクトリは仮想マシン ディレクトリ内にあります。最適なパフォーマンスを実現するには、仮想マシン ディレクトリをネットワーク ドライブ上に配置しないようにします。他のユーザーがその仮想マシンにアクセスする必要がある場合は、そのユーザーがアクセス可能な場所に仮想マシンのファイルを保存してください。

仮想マシン ファイルの詳細については、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

仮想マシン ディレクトリ

Workstation は、仮想マシン ディレクトリに標準仮想マシンを保存します。

デフォルトの仮想マシン ディレクトリの場所は、ホスト OS によって異なります。

表 3-4. デフォルトの仮想マシン ディレクトリ

ホスト OS	デフォルトの場所
Windows XP Windows Server 2003	C:\Documents and Settings\ <username>\My Documents\My Virtual Machines <username> は現在ログインしているユーザーの名前です。</username>
Windows Vista Windows 7	C:\Users\ <username>\Documents\Virtual Machines <username> は現在ログインしているユーザーの名前です。</username>
Linux	<homedir>/vmware <homedir> は現在ログインしているユーザーのホーム ディレクトリです。

仮想マシンのディスク容量の指定

[新規仮想マシン] ウィザードで、カスタム構成中に新しい仮想ディスクを作成するように指示すると、仮想ディスクのサイズを設定し、ディスクを複数の仮想ディスク (.vmdk) ファイルに分割するかどうかを指定するよう求めるプロンプトが表示されます。

仮想ディスクは、1 個または複数の仮想ディスク ファイルで構成されます。仮想ディスク ファイルには仮想マシンのハードディスク ドライブの内容が保存されます。ほとんどすべてのファイルの内容は仮想マシンのデータです。ファイルのごく一部は、仮想マシン オーバーヘッドに割り当てられます。仮想マシンが直接物理ディスクに接続されている場合、仮想ディスク ファイルは、仮想マシンがアクセスを許可されたパーティションに関する情報を保存します。

仮想ディスク ファイルは 0.001GB から 2TB の範囲内でサイズを指定できます。仮想ディスクを単一ファイルとして保存するか、または複数のファイルに分割するかについても選択できます。

ファイルサイズに制限があるファイルシステムに仮想ディスクを保存する場合は、[仮想ディスクを複数のファイルに分割]を選択します。950GBより容量の小さい仮想ディスクを分割する場合は、2GBずつの一連の複数の仮想ディスクファイルが作成されます。950GBより容量の大きい仮想ディスクを分割する場合は、2つの仮想ディスクファイルが作成されます。1つ目の仮想ディスクファイルの最大容量は1.9TBで、2つ目の仮想ディスクファイルには残りのデータが保存されます。

仮想マシン作成後、仮想ディスクの設定を編集したり、仮想ディスクを追加したりできます。

仮想マシンのハードウェアのカスタマイズ

[新規仮想マシン]ウィザードの最後のページで[ハードウェアをカスタマイズ]をクリックして、仮想マシンのハードウェアをカスタマイズできます。

メモリ割り当て、仮想CPUの数、CD/DVDとフロッピーのドライブ設定、ネットワーク接続の種類などのデフォルトのハードウェア設定を変更できます。

仮想マシンハードウェアのカスタマイズについては、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

標準仮想マシン作成のワークシート

このワークシートを印刷して、標準仮想マシンの作成時に指定する値を記入できます。

表 3-5. ワークシート：標準仮想マシン

オプション	値を記入してください
ゲスト OS ソース	
手動インストールのゲスト OS の種類	
Windows ゲストの簡易インストール情報	
<ul style="list-style-type: none"> ■ プロダクトキー ■ OS バージョン ■ フルネーム ■ パスワード ■ 自動ログインの認証情報 	
Linux ゲストの簡易インストール情報	
<ul style="list-style-type: none"> ■ フルネーム ■ ユーザー名 ■ パスワード 	
仮想マシン名	
仮想マシンの格納場所	
ディスク容量	

標準的な仮想マシンの作成

[新規仮想マシン]ウィザードのオプションで標準構成を選択すると、最小限のステップで仮想マシンを作成できます。

ハードウェアの互換性をデフォルト以外の設定にして仮想マシンを作成する場合はカスタム構成を選択する必要があります。その上で、SCSI コントローラの I/O コントローラ タイプの選択や仮想ディスクのタイプの選択、物理ディスクの構成、ディスク領域を徐々に大きくするのではなく、すべての仮想ディスク領域を割り当てる設定を行います。カスタム構成の作成についての詳細は、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

開始する前に

- [新規仮想マシン]ウィザードを使って標準的な仮想マシンを作成するときに必要な情報がそろっていることを確認してください。[標準的な仮想マシン作成の準備 (P. 36)]を参照してください。

- インストール予定のゲスト OS がサポートされていることを確認します。当社 Web サイトからアクセス可能なオンラインの『VMware 互換性ガイド』を参照してください。
- インストールするゲスト OS の情報については、『ゲスト OS インストール ガイド』を参照してください。
- インストーラ ディスクからゲスト OS をインストールする場合、ホストシステムの CD-ROM ドライブにインストーラ ディスクを挿入します。
- ISO イメージ ファイルからゲスト OS をインストールする場合、ISO イメージ ファイルがホストシステムにアクセス可能なディレクトリにあることを確認します。

手順

- 1 [新規仮想マシン] ウィザードを開始します。

オプション	説明
Windows ホスト	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホストがリモート サーバに接続されていない場合は、[ファイル] - [新規仮想マシン] を選択します。 ■ ホストがリモート サーバに接続されている場合は、[ファイル] - [新規仮想マシン] - [このコンピュータ] を選択します。
Linux ホスト	[ファイル] - [新規仮想マシン] を選択します。

- 2 [標準] を選択して標準的な仮想マシンを作成します。
- 3 ゲスト OS のソースを選択します。

オプション	説明
物理ディスクを使用	インストール ディスクを挿入した物理ディスクを選択します。
ISO イメージを使用	ISO イメージ ファイルの場所を入力または参照します。
後でゲスト OS をインストール	未使用のディスクを持つ仮想マシンを作成します。仮想マシンを作成した後、ゲスト OS を手動でインストールする必要があります。

- 4 ゲスト OS の情報を指定します。

オプション	説明
簡易インストールを使用する場合	ゲスト OS の簡易インストール情報を入力します。
簡易インストールを使用しない場合	ゲスト OS とバージョンを選択します。ゲスト OS がリストにない場合は、オペレーティングシステムとバージョンで [その他] を選択します。

- 5 仮想マシン名を入力し、仮想マシン ファイルのディレクトリを入力または参照します。
- 6 仮想ディスクのサイズを選択し、ディスクを複数のファイルに分割するかどうかを指定します。
- 7 (オプション) [ハードウェアをカスタマイズ] をクリックしてハードウェア構成をカスタマイズします。
仮想マシンの作成後、仮想ハードウェア設定を変更することもできます。
- 8 (オプション) 仮想マシンの作成後にパワーオンするには、[この仮想マシンを作成後にパワーオンする] を選択します。
このオプションは、ゲスト OS を手動でインストールしている場合は使用できません。
- 9 [完了] をクリックすると、仮想マシンが作成されます。

簡易インストールを使用する場合、仮想マシンをパワーオンするとゲスト OS のインストールが開始します。ゲスト OS は自動でインストールされ、通常、何も入力しなくても実行されます。ゲスト OS のインストール後、簡易インストールは VMware Tools をインストールします。

簡易インストールを使用していない場合、ライブラリに仮想マシンが表示されます。

次に進む前に

簡易インストールを使用し、[新規仮想マシン] ウィザードの完了後に仮想マシンがパワーオンされなかった場合は、仮想マシンをパワーオンしてゲスト OS のインストールを開始します。「[簡易インストールによる ゲスト OS のインストール \(P. 42\)](#)」を参照してください。

簡易インストールを使用しなかった場合、ゲスト OS を手動でインストールします。「[ゲスト OS の手動インストール \(P. 42\)](#)」を参照してください。

簡易インストールによる ゲスト OS のインストール

簡易インストールを使用する場合は、通常はゲスト OS のインストール中に情報を入力する必要はありません。

ただし、[新規仮想マシン] ウィザードで簡易インストール情報の一部を入力しなかった場合は、製品キー、ユーザー名、またはパスワードの入力を求められる場合があります。

また、ゲスト OS が複数のディスクまたは ISO イメージ ファイルで構成されている場合は、次のディスクを求められることがあります。

手順

- インストール中に製品キー、ユーザー名、またはパスワードの入力を求められた場合は、仮想マシンのウィンドウ内をクリックして必要な情報を入力します。
マウスとキーボードの入力が仮想マシンによってキャプチャされます。
- 物理ディスクを使用していてインストール中に次のディスクを求められた場合は、ホストシステムの CD-ROM または DVD ドライブを使用します。
- 複数の ISO イメージ ファイルを使用していてインストール中に次のディスクを求められた場合は、次の ISO イメージ ファイルを選択します。

オプション	説明
Windows ホスト	[ディスクの変更] をクリックして次の ISO イメージ ファイルを参照します。
Linux ホスト	a [VM] - [取外し可能デバイス] - [CD/DVD] - [設定] を選択して、次の ISO イメージ ファイルを参照します。 b [接続済み] を選択します。 c [保存] をクリックします。

ゲスト OS の手動インストール

ゲスト OS は、実際のコンピュータにオペレーティング システムをインストールする場合と同様の方法で、仮想マシンにインストールできます。[新規仮想マシン] ウィザードで仮想マシンを作成するときに簡易インストールを使用しない場合、手動でゲスト OS をインストールする必要があります。

ゲスト OS は、インストーラ ディスクまたは ISO イメージ ファイルからインストールできます。PXE サーバを使用して、ゲスト OS をネットワーク上でインストールすることもできます。仮想マシンをインストーラ ディスクから起動できないようにしているホスト構成の場合は、インストーラ ディスクから ISO イメージ ファイルを作成できます。

開始する前に

- オペレーティング システムがサポートされていることを確認します。当社 Web サイトでオンラインの『VMware 互換性ガイド』を参照してください。
- インストールするゲスト OS の情報については、『ゲスト OS インストール ガイド』を参照してください。

手順

- 1 インストーラ ディスクからゲスト OS をインストールする場合、物理 CD-ROM または DVD ドライブを使用するように仮想マシンを構成し、そのドライブをパワーオン時に接続するように構成します。
 - a 仮想マシンを選択して、[VM] - [設定] を選択します。
 - b [ハードウェア] タブで [CD/DVD ドライブ] を選択します。
 - c [パワーオン時に接続] を選択します。
 - d (リモート仮想マシンのみ) CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブの場所を選択します。
 - e [物理ドライブを使用する] を選択し、ドライブを選択します。
 - f [OK] をクリックして、変更を保存します。
- 2 ISO イメージ ファイルからゲスト OS をインストールする場合、仮想マシンの CD/DVD ドライブが ISO イメージ ファイルを参照するように構成し、そのドライブをパワーオン時に接続するように構成します。
 - a 仮想マシンを選択して、[VM] - [設定] を選択します。
 - b [ハードウェア] タブで [CD/DVD ドライブ] を選択します。
 - c [パワーオン時に接続] を選択します。
 - d (リモート仮想マシンのみ) ISO イメージ ファイルの場所を選択します。
 - e [ISO イメージ ファイルを使用] を選択して ISO イメージ ファイルの場所を参照します。
 - f [OK] をクリックして、変更を保存します。
- 3 インストーラ ディスクからゲスト OS をインストールする場合、CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブにディスクを挿入します。
- 4 仮想マシンをオンにします。
- 5 後はオペレーティングシステム ベンダーのインストール指示に従ってください。
- 6 オペレーティングシステムが複数のインストーラ ディスクで構成されていて次のディスクの挿入を求められた場合、物理ドライブに次のディスクを挿入します。
- 7 オペレーティングシステムが複数の ISO イメージ ファイルで構成されている場合、次の CD のイメージ ファイルを選択します。
 - a [VM] - [取外し可能デバイス] - [CD/DVD] - [切断] を選択して、現在の ISO イメージ ファイルを切断します。
 - b [VM] - [取外し可能デバイス] - [CD/DVD] - [設定] を選択して、次の ISO イメージ ファイルを選択します。
 - c [接続済み] を選択して [OK] をクリックします。
- 8 オペレーティングシステムの標準ツールを使用して、設定を構成します。

次に進む前に

VMware Tools をインストールします。VMware Tools をインストールしてからオペレーティングシステムのライセンスをアクティベートしてください。[\[VMware Tools のインストール \(P. 44\)\]](#) を参照してください。

VMware Tools のインストールとアップグレード

VMware Tools のインストールは新しい仮想マシンの作成プロセスの一部です。VMware Tools のアップグレードは仮想マシンを最新標準に保つプロセスの一部です。

最適なパフォーマンスを実現し、最新の状態に更新するためには、使用している Workstation に一致するバージョンの VMware Tools をインストールまたはアップグレードします。その他の互換性オプションも使用できます。

VMware Tools のインストール、アップグレード、および構成の詳細については『VMware Tools のインストールと構成』を参照してください。

- [VMware Tools のインストール](#) (P. 44)

VMware Tools は、仮想マシンのゲスト OS のパフォーマンスを強化し、仮想マシンの管理機能を向上させるための一連のユーティリティです。

- [VMware Tools のアップグレード](#) (P. 44)

VMware Tools は、手動でアップグレードすることも、新しいバージョンの VMware Tools を確認してインストールするように仮想マシンを構成することもできます。

- [VMware Tools の手動インストールとアップグレード](#) (P. 45)

Windows、Linux、NetWare、Solaris、および FreeBSD 仮想マシン上で手動で VMware Tools をインストールまたはアップグレードできます。

- [セッション マネージャを使用しない場合の、手動による VMware ユーザー プロセスの開始](#) (P. 51)

Linux、Solaris、および FreeBSD ゲスト OS で、VMware Tools によって使用される実行可能なプロセスの 1 つに VMware ユーザー プロセスがあります。このプログラムには、いくつかある機能の中で特に、fit-guest-to-window 機能とユニティ モードが実装されています。

- [VMware Tools のアンインストール](#) (P. 51)

VMware Tools のアップグレードが不完全な場合があります。この問題は通常、VMware Tools をアンインストールしてから再インストールすることで解決できます。

VMware Tools のインストール

VMware Tools は、仮想マシンのゲスト OS のパフォーマンスを強化し、仮想マシンの管理機能を向上させるための一連のユーティリティです。

VMware Tools がなくてもゲスト OS を実行できますが、VMware の多くの機能は、VMware Tools をインストールするまで利用できません。たとえば、仮想マシンに VMware Tools をインストールしていない場合、ツールバーからシャットダウンまたは再起動のオプションを使用できません。使用できるのは、電源のオプションのみです。

Windows 簡易インストールや Linux 簡易インストールの機能を使用して、オペレーティングシステムのインストール終了後すぐに VMware Tools をインストールできます。

VMware Tools のインストーラは ISO イメージ ファイルです。ゲスト OS では、ISO イメージ ファイルが CD-ROM のように認識されます。Windows、Linux、Solaris、FreeBSD、NetWare などのゲスト OS のタイプごとに ISO イメージ ファイルがあります。コマンドを選択して VMware Tools のインストールまたはアップグレードを行う場合、仮想マシンの第 1 仮想 CD-ROM ディスク ドライブが、そのゲスト OS 用の VMware Tools の ISO ファイルに一時的に接続されます。

最新バージョンの ISO ファイルは会社の Web サイトから取得できます。コマンドを選択して VMware Tools のインストールまたはアップグレードを行う場合、VMware 製品により、特定のオペレーティングシステム用の最新バージョンの ISO ファイルがダウンロードされているかどうか判別されます。ダウンロードされたファイルが最新バージョンでなかったり、特定のオペレーティングシステム用の VMware Tools の ISO ファイルがダウンロードされていない場合には、ファイルをダウンロードするよう求められます。

インストールの手順はオペレーティングシステムによって異なります。

VMware Tools のアップグレード

VMware Tools は、手動でアップグレードすることも、新しいバージョンの VMware Tools を確認してインストールするように仮想マシンを構成することもできます。

ゲスト OS は、仮想マシンをパワーオンしたときに VMware Tools のバージョンを確認します。新しいバージョンが利用できる場合は、仮想マシンのステータス バーにメッセージが表示されます。

Windows 仮想マシンでは、アップグレードが利用可能な場合は通知するように VMware Tools を設定できます。この通知オプションを有効にした場合、VMware Tools のアップグレードが利用可能になると、Windows タスクバーの VMware Tools アイコンに黄色い注意アイコンが付けられます。

VMware Tools のアップグレードは、VMware Tools を最初にインストールしたときと同じ手順でインストールできます。VMware Tools をアップグレードすることは、新しいバージョンがインストールされることを意味します。

Windows および Linux ゲスト OS の場合、VMware Tools を自動的にアップグレードするように Windows の仮想マシンでは構成できます。Windows ゲスト OS の場合、仮想マシンをパワーオンするとバージョンチェックが実行されますが、自動アップグレードは、仮想マシンをパワーオフまたは再起動したときに実行されます。アップグレードの進行中、ステータス バーには **VMware Tools をインストールしています...** というメッセージが表示されます。

重要 Linux ゲスト OS で VMware Tools をアップグレードする場合、新しいネットワーク モジュールが使用可能になりますが、ゲスト OS を再起動するか、ネットワークを停止して、VMware ネットワーク カーネル モジュールをアンロードおよび再ロードしてからネットワークを再起動するまで使用されません。つまり、VMware Tools が自動的にアップグレードするように設定されていても、新しい機能を使用するためには、再起動するかネットワーク モジュールを再ロードする必要があります。

このストラテジーにより、ネットワークの中断が回避され、VMware Tools を SSH 経由で使用することができます。

最高のパフォーマンスと最新のアップデートを得るには、ご使用の VMware 製品に付属する VMware Tools バージョンに VMware Tools をインストールまたはアップグレードしてください。その他の互換性オプションも使用できます。

VMware Tools の手動インストールとアップグレード

Windows、Linux、NetWare、Solaris、および FreeBSD 仮想マシン上で手動で VMware Tools をインストールまたはアップグレードできます。

VMware Tools を多数の Windows 仮想マシンにインストールする場合、ゲスト OS のコマンド プロンプトで VMware Tools の **setup.exe** を使用することにより、インストールを自動化できます。詳細については『VMware Tools のインストールと構成』を参照してください。

- [Windows 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたはアップグレード \(P. 45\)](#)
サポートされているすべての Windows ゲスト OS は、VMware Tools をサポートしています。
- [Linux 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたはアップグレード \(P. 46\)](#)
Linux 仮想マシンの場合、VMware Tools はコマンドラインを使用して手動でインストールまたはアップグレードします。
- [NetWare 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたはアップグレード \(P. 48\)](#)
NetWare 仮想マシンの場合、VMware Tools はコマンドラインを使用して手動でインストールまたはアップグレードします。
- [Solaris 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたはアップグレード \(P. 49\)](#)
Solaris 仮想マシンの場合、VMware Tools はコマンドラインを使用して手動でインストールまたはアップグレードします。
- [FreeBSD 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたはアップグレード \(P. 50\)](#)
FreeBSD 仮想マシンの場合、VMware Tools はコマンドラインを使用して手動でインストールまたはアップグレードします。

Windows 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたはアップグレード

サポートされているすべての Windows ゲスト OS は、VMware Tools をサポートしています。

仮想マシンのゲスト OS のパフォーマンスを高め、仮想マシンの管理を向上させるために、VMware Tools の最新バージョンをインストールします。仮想マシンをパワーオンしたとき、VMware Tools の新しいバージョンが使用可能であれば、ゲスト OS のステータス バーに通知が表示されます。

Windows 2000 以降では、VMware Tools によって仮想マシンのアップグレード ヘルパー ツールがインストールされます。このツールによって、仮想ハードウェア バージョン 4 からバージョン 7 以降にアップグレードした場合はネットワーク構成が復元されます。

開始する前に

- 仮想マシンをパワーオンします。
- ゲスト OS が実行されていることを確認します。
- オペレーティングシステムをインストールしたときに、仮想マシンの仮想 CD/DVD ドライブを ISO イメージファイルに接続していた場合、仮想 CD/DVD ドライブが物理ドライブを自動検出する構成になるように設定を変更します。

自動検出設定を使用することで、仮想マシンの最初の仮想 CD/DVD ドライブが、VMware Tools のインストール用の VMware Tools ISO ファイルを検出して接続できます。この ISO ファイルは、ゲスト OS では物理 CD のように表示されます。CD/DVD ドライブが物理ドライブを自動検出するように設定するには、仮想マシン設定エディタを使用します。

- ゲスト OS が Windows NT、Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003、Windows Vista、または Windows 7 の場合には、管理者としてログインします。Windows 95、Windows 98、または Windows Me ゲスト OS で VMware Tools のインストールを行う場合は、どのユーザー権限でもかまいません。

手順

- 1 ホスト上で、Workstation のメニューバーから、[VM] - [管理] - [VMware Tools のインストール] の順に選択します。
古いバージョンの VMware Tools がインストールされている場合は、メニュー項目は [VMware Tools のアップデート] になります。
- 2 VMware Tools を初めてインストールする場合は、[VMware Tools のインストール] 情報画面で [OK] をクリックします。
ゲスト OS の CD-ROM ドライブで自動再生が有効になっている場合は、VMware Tools のインストールウィザードが表示されます。
- 3 自動再生が有効になっていない場合は、ウィザードを手動で起動するため、[スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックして **D:\setup.exe** と入力します。ここで、**D:** は最初の仮想 CD-ROM ドライブです。
- 4 後は画面の指示に従ってください。
- 5 新規ハードウェアウィザードが表示される場合は、ウィザードに従ってデフォルト値をそのまま使用します。
- 6 ベータバージョンや RC バージョンの VMware Tools をインストールしていてパッケージまたはドライバに署名がない警告が表示される場合は、[インストールを続行する] をクリックしてインストールを完了します。
- 7 プロンプトが表示されたら、仮想マシンを再起動します。

次に進む前に

仮想マシンの新しい仮想ハードウェアバージョンが使用可能な場合は、仮想ハードウェアをアップグレードします。

Linux 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたはアップグレード

Linux 仮想マシンの場合、VMware Tools はコマンドラインを使用して手動でインストールまたはアップグレードします。

仮想マシンのゲスト OS のパフォーマンスを高め、仮想マシンの管理を向上させるために、VMware Tools の最新バージョンをインストールします。仮想マシンをパワーオンしたとき、VMware Tools の新しいバージョンが使用可能であれば、ゲスト OS のステータス バーに通知が表示されます。

開始する前に

- 仮想マシンをパワーオンします。
- ゲスト OS が実行されていることを確認します。
- VMware Tools インストーラは Perl で記述されているため、ゲスト OS に Perl がインストールされていることを確認します。

手順

- 1 ホスト上で、Workstation のメニューバーから、[VM] - [管理] - [VMware Tools のインストール] の順に選択します。

古いバージョンの VMware Tools がインストールされている場合は、メニュー項目は [VMware Tools のアップデート] になります。

- 2 仮想マシンで、ゲスト OS に root としてログインし、ターミナル ウィンドウを開きます。
- 3 Linux ディストリビューションで VMware Tools の仮想 CD-ROM イメージが自動的にマウントされたかどうかを確認するには、引数なしで `mount` コマンドを実行します。

CD-ROM デバイスがマウントされている場合、CD-ROM デバイスとそのマウント ポイントが次のように表示されます。

```
/dev/cdrom on /mnt/cdrom type iso9660 (ro,nosuid,nodev)
```

- 4 VMware Tools の仮想 CD-ROM イメージがマウントされていない場合、CD-ROM ドライブをマウントします。

- a マウント ポイントのディレクトリが存在しない場合は作成します。

```
mkdir /mnt/cdrom
```

一部の Linux ディストリビューションでは、異なるマウント ポイント名を使用します。たとえば、いくつかのディストリビューションのマウント ポイントは、`/mnt/cdrom` ではなく `/media/VMware Tools` です。ご使用のディストリビューションの規則を反映するようにコマンドを変更してください。

- b CD-ROM ドライブをマウントします。

```
mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

一部の Linux ディストリビューションでは、異なるデバイス名を使用したり、`/dev` ディレクトリが異なっていたりすることがあります。CD-ROM ドライブが `/dev/cdrom` ではない場合、または CD-ROM のマウント ポイントが `/mnt/cdrom` でない場合は、ディストリビューションの規則を反映するようにコマンドを変更してください。

- 5 作業ディレクトリ (`/tmp` など) に変更します。

```
cd /tmp
```

- 6 VMware Tools をインストールする前に、前回の `vmware-tools-distrib` ディレクトリを削除します。

このディレクトリの場所は、前回のインストール中にこのディレクトリを配置した場所に応じて異なります。多くの場合、このディレクトリの場所は `/tmp/vmware-tools-distrib` です。

- 7 マウント ポイントのディレクトリの内容を一覧表示し、VMware Tools tar インストーラのファイル名を書き留めます。

```
ls <mount-point>
```

- 8 インストーラを展開します。

```
tar xzpf /mnt/cdrom/VMwareTools-<x.x.x>-<yyyy>.tar.gz
```

値 `<x.x.x>` は製品のバージョン番号を、`<yyyy>` は製品リリースのビルド番号を示します。

RPM インストールの実行後に tar インストールを実行するか、その逆の順序でインストールを実行すると、インストーラは前回のインストールを検出するため、続行する前にインストーラのデータベース形式を変換する必要があります。

- 9 必要に応じて、CD-ROM イメージのマウントを解除します。

```
umount /dev/cdrom
```

CD-ROM が自動的にマウントされる Linux ディストリビューションの場合は、イメージのマウントを解除する必要はありません。

- 10 インストーラを実行し、VMware Tools を設定します。

```
cd vmware-tools-distrib
./vmware-install.pl
```

通常、インストーラが終了した後で、`vmware-config-tools.pl` 構成ファイルが実行されます。

- 11 デフォルト値が構成に適している場合は、<Enter> を押してプロンプトに応答し、デフォルト値を受け入れます。

- 12 スクリプトの末尾にある指示に従います。

この指示には、使用する機能に応じて、Xセッションの再起動、ネットワークの再起動、再ログイン、VMware User プロセスの開始などが含まれます。または、ゲスト OS を再起動してこれらのタスクをすべて完了することもできます。

次に進む前に

仮想マシンの新しい仮想ハードウェアバージョンが使用可能な場合は、仮想ハードウェアをアップグレードします。

NetWare 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたはアップグレード

NetWare 仮想マシンの場合、VMware Tools はコマンドラインを使用して手動でインストールまたはアップグレードします。

仮想マシンのゲスト OS のパフォーマンスを高め、仮想マシンの管理を向上させるために、VMware Tools の最新バージョンをインストールします。仮想マシンをパワーオンしたとき、VMware Tools の新しいバージョンが使用可能であれば、ゲスト OS のステータス バーに通知が表示されます。

開始する前に

- 仮想マシンをパワーオンします。
- ゲスト OS が実行されていることを確認します。
- VMware Tools インストーラは Perl で記述されているため、ゲスト OS に Perl がインストールされていることを確認します。

手順

- 1 ホスト上で、Workstation のメニューバーから、[VM] - [管理] - [VMware Tools のインストール] の順に選択します。

古いバージョンの VMware Tools がインストールされている場合は、メニュー項目は [VMware Tools のアップデート] になります。

- 2 仮想 CD-ROM デバイスが ISO イメージをボリュームとしてマウントするように CD-ROM ドライバを読み込みます。

オペレーティング システム	コマンド
NetWare 6.5	LOAD CDDVD
NetWare 6.0 または NetWare 5.1	LOAD CD9660.NSS
NetWare 4.2 (vSphere では使用不可)	load cdrom

インストールが完了したら、「NetWare の VMware Tools が実行中です」というメッセージが NetWare 6.5 と NetWare 6.0 ゲスト OS のロガー画面、および NetWare 4.2 と 5.1 ゲスト OS のコンソール画面に表示されます。

- 3 VMware Tools 仮想ディスク (`netware.iso`) が仮想マシンに接続されている場合、コンソール ウィンドウのステータス バーにある CD-ROM アイコンを右クリックし、[切断] を選択して切断します。

次に進む前に

仮想マシンの新しい仮想ハードウェアバージョンが使用可能な場合は、仮想ハードウェアをアップグレードします。

Solaris 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたはアップグレード

Solaris 仮想マシンの場合、VMware Tools はコマンドラインを使用して手動でインストールまたはアップグレードします。

仮想マシンのゲスト OS のパフォーマンスを高め、仮想マシンの管理を向上させるために、VMware Tools の最新バージョンをインストールします。仮想マシンをパワーオンしたとき、VMware Tools の新しいバージョンが使用可能であれば、ゲスト OS のステータス バーに通知が表示されます。

開始する前に

- 仮想マシンをパワーオンします。
- ゲスト OS が実行されていることを確認します。
- VMware Tools インストーラは Perl で記述されているため、ゲスト OS に Perl がインストールされていることを確認します。

手順

- 1 ホスト上で、Workstation のメニュー バーから、[VM] - [管理] - [VMware Tools のインストール] の順に選択します。
古いバージョンの VMware Tools がインストールされている場合は、メニュー項目は [VMware Tools のアップデート] になります。
- 2 仮想マシンで、ゲスト OS に root としてログインし、ターミナル ウィンドウを開きます。
- 3 Solaris ポリリューム マネージャによって `/cdrom/vmwaretools` に CD-ROM がマウントされない場合、ポリリューム マネージャを再起動します。

```
/etc/init.d/volmgt stop
/etc/init.d/volmgt start
```
- 4 作業ディレクトリ (`/tmp` など) に変更します。

```
cd /tmp
```
- 5 VMware Tools を展開します。

```
gunzip -c /cdrom/vmwaretools/vmware-solaris-tools.tar.gz | tar xf -
```
- 6 インストーラを実行し、VMware Tools を設定します。

```
cd vmware-tools-distrib
./vmware-install.pl
```


通常、インストーラが終了した後で、`vmware-config-tools.pl` 構成ファイルが実行されます。
- 7 デフォルト値が構成に適している場合は、<Enter> を押してプロンプトに回答し、デフォルト値を受け入れます。
- 8 スクリプトの末尾にある指示に従います。
この指示には、使用する機能に応じて、X セッションの再起動、ネットワークの再起動、再ログイン、VMware User プロセスの開始などが含まれます。または、ゲスト OS を再起動してこれらのタスクをすべて完了することもできます。

次に進む前に

仮想マシンの新しい仮想ハードウェア バージョンが使用可能な場合は、仮想ハードウェアをアップグレードします。

FreeBSD 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたはアップグレード

FreeBSD 仮想マシンの場合、VMware Tools はコマンドラインを使用して手動でインストールまたはアップグレードします。

仮想マシンのゲスト OS のパフォーマンスを高め、仮想マシンの管理を向上させるために、VMware Tools の最新バージョンをインストールします。仮想マシンをパワーオンしたとき、VMware Tools の新しいバージョンが使用可能であれば、ゲスト OS のステータス バーに通知が表示されます。

開始する前に

- 仮想マシンをパワーオンします。
- ゲスト OS が実行されていることを確認します。
- VMware Tools インストーラは Perl で記述されているため、ゲスト OS に Perl がインストールされていることを確認します。

手順

- 1 ホスト上で、Workstation のメニュー バーから、[VM] - [管理] - [VMware Tools のインストール] の順に選択します。
古いバージョンの VMware Tools がインストールされている場合は、メニュー項目は [VMware Tools のアップデート] になります。
- 2 仮想マシンで、ゲスト OS に root としてログインし、ターミナル ウィンドウを開きます。
- 3 ディストリビューションで CD-ROM が自動的にマウントされない場合、VMware Tools の仮想 CD-ROM イメージをマウントします。
たとえば、**mount /cdrom** と入力します。
- 4 作業ディレクトリ (/tmp など) に変更します。

```
cd /tmp
```
- 5 VMware Tools tar ファイルを解凍します。

```
tar xzpf /cdrom/vmware-freebsd-tools.tar.gz
```
- 6 ディストリビューションで自動マウントを使用していない場合、VMware Tools の仮想 CD-ROM イメージのマウントを解除します。

```
umount /cdrom
```
- 7 インストーラを実行し、VMware Tools を設定します。

```
cd vmware-tools-distrib
./vmware-install.pl
```


通常、インストーラが終了した後で、**vmware-config-tools.pl** 構成ファイルが実行されます。
- 8 デフォルト値が構成に適している場合は、<Enter> を押してプロンプトに回答し、デフォルト値を受け入れます。
- 9 スクリプトの末尾にある指示に従います。
この指示には、使用する機能に応じて、X セッションの再起動、ネットワークの再起動、再ログイン、VMware User プロセスの開始などが含まれます。または、ゲスト OS を再起動してこれらのタスクをすべて完了することもできます。

次に進む前に

仮想マシンの新しい仮想ハードウェア バージョンが使用可能な場合は、仮想ハードウェアをアップグレードします。

セッションマネージャを使用しない場合の、手動による VMware ユーザー プロセスの開始

Linux、Solaris、および FreeBSD ゲスト OS で、VMware Tools によって使用される実行可能なプロセスの 1 つに VMware ユーザー プロセスがあります。このプログラムには、いくつかある機能の中で特に、fit-guest-to-window 機能とユニティ モードが実装されています。

通常このプロセスは、VMware Tools を構成した後、デスクトップ環境からログアウトしログインし直すと、自動的に開始されます。次のような環境の場合には、プロセスを手動で開始する必要があります。

- セッションマネージャを使用せずに X セッションを実行する（たとえば、`xdm`、`kdm`、または `gdm` を使わずに、`startx` を使ってデスクトップ環境を取得する）。
- `gdm` または `xdm` を使用せずに、旧バージョンの GNOME を使用している。
- Desktop Application Autostart Specification (<http://standards.freedesktop.org> を参照) をサポートしていないセッションマネージャまたは環境を使用している。
- VMware Tools をアップグレードする。

手順

- X セッションの起動時に VMware ユーザー プロセスを開始するには、`vmware-user` を、`.xsession` または `.xinitrc` ファイルなどの適切な X 起動スクリプトに追加します。

`vmware-user` プログラムは、バイナリ プログラムのインストール先に選択したディレクトリに配置されます。デフォルトは `/usr/bin` です。変更する必要がある起動スクリプトは、使用しているシステムによって異なります。

- VMware Tools ソフトウェアのアップグレード後、または特定の機能が動作していないことに気づいてこのプロセスを開始するには、ターミナル ウィンドウを開き、コマンド `vmware-user` を入力します。

VMware Tools のアンインストール

VMware Tools のアップグレードが不完全な場合があります。この問題は通常、VMware Tools をアンインストールしてから再インストールすることで解決できます。

開始する前に

- 仮想マシンをパワーオンします。
- ゲスト OS にログインします。

手順

- ◆ オペレーティングシステム固有の適切な手順に従って、VMware Tools をアンインストールします。

オペレーティングシステム	操作
Windows 7	ゲスト OS の [プログラム] - [プログラムのアンインストール] 項目を使用します。
Windows Vista および Windows Server 2008	ゲスト OS の [プログラムと機能] - [プログラムのアンインストール] 項目を使用します。
Windows XP 以前	ゲスト OS の [プログラムの追加と削除] 項目を使用します。
Linux	RPM インストーラを使用して VMware Tools をインストールした Linux ゲスト OS の場合は、ターミナル ウィンドウでコマンド <code>rpm -e VMwareTools</code> を入力します。
Linux, Solaris, FreeBSD, NetWare	root の権限でログインし、ターミナル ウィンドウでコマンド <code>vmware-uninstall-tools.pl</code> を入力します。
Mac OS X サーバ	<code>/Library/Application Support/VMware Tools</code> にある [VMware Tools のアンインストール] アプリケーションを使用します。

次に進む前に

VMware Tools を再インストールします。

仮想マシンへの新規ソフトウェアのインストール

新しいソフトウェアは、物理コンピュータと同じ手順で仮想マシンにインストールできます。いくつかの手順を追加で行うだけですみます。

開始する前に

- VMware Tools がゲスト OS にインストールされていることを確認します。ソフトウェアをインストールする前に VMware Tools をインストールしておけば、仮想マシン構成が変更された場合にソフトウェアを再アクティベーションしなければならない可能性もほとんどなくなります。
- インストールソフトウェアが格納されている CD-ROM ドライブ、ISO イメージ ファイル、またはフロッピー ドライブに仮想マシンがアクセスできることを確認します。

手順

- 1 仮想マシンを選択して、[VM] - [設定] を選択します。
- 2 [ハードウェア] タブで [メモリ] を選択し、仮想マシンの最終的なメモリ サイズを設定して、[OK] をクリックします。

一部のアプリケーションでは、仮想マシンの仮想ハードウェアに基づいてライセンスキーを作成する、プロダクトアクティベーション機能が使用されます。このようなソフトウェアは、仮想マシンの構成を変更すると、再びアクティベーションが必要になることがあります。メモリ サイズを設定することにより、大きな変更の回数を最小限にできます。
- 3 メーカーが指定する手順に従って、新しいソフトウェアをインストールします。

仮想マシンの使用

Workstation で仮想マシンを使用する場合、ホストシステムと仮想マシンの間でのファイルやテキストの転送、ホストプリンタへの出力、取外し可能デバイスの接続、ディスプレイ設定変更を行えます。

また、フォルダを使用して仮想マシンを整理および管理し、スナップショットを作成して仮想マシンの状態を保存することもできます。

Workstation の高度な機能によって、仮想ディスクのマッピング、共有フォルダの設定による複数の仮想マシン間や仮想マシンおよびホストシステム間でのファイルの共有、リモート ユーザーとの仮想マシンの共有、リモート ホストでの仮想マシンの使用も可能です。これらの機能とその他の高度な機能の詳細な情報については、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [仮想マシンの起動 \(P. 53\)](#)
- [仮想マシンのシャットダウン \(P. 54\)](#)
- [仮想マシンの一時停止/一時停止の解除 \(P. 55\)](#)
- [仮想マシンのサスペンドまたはレジューム \(P. 55\)](#)
- [ドラッグ アンド ドロップ機能を使用 \(P. 56\)](#)
- [コピーと貼り付け機能を使用 \(P. 57\)](#)
- [仮想マシンへのホスト プリンタの追加 \(P. 58\)](#)
- [仮想マシン内での取外し可能デバイスの使用 \(P. 58\)](#)
- [仮想マシン ディスプレイの変更 \(P. 59\)](#)
- [フォルダによる仮想マシンの管理 \(P. 64\)](#)
- [仮想マシンのスナップショットの作成 \(P. 66\)](#)
- [仮想マシンを閉じる/Workstation を終了する \(P. 71\)](#)

仮想マシンの起動

仮想マシンは [VM] メニューまたはツールバーから起動できます。[VM] メニューを使用するときは、ハードまたはソフト パワー オプションを選択したり、仮想マシンを BIOS セットアップ モードで起動したりできます。

仮想マシンをフォルダ内に格納しているときは、バッチ処理による電源操作を行えます。「[フォルダによる仮想マシンの管理 \(P. 64\)](#)」を参照してください。

Workstation を使ってリモート サーバに接続するときは、リモート ホスト上の仮想マシンを起動できます。リモート仮想マシンの使用については、『VMware Workstation の使用方法』を参照してください。

開始する前に

仮想マシンがライブラリに表示されない場合には、[ファイル] - [開く] を選択し、仮想マシン構成 (.vmx) ファイルを参照します。

手順

- 仮想マシンの起動時にパワー オプションを選択するには、仮想マシンを選択してから [VM] - [パワー] を選択します。

オプション	説明
[パワーオン]	(ハード オプション) Workstation は仮想マシンを起動します。
[ゲストの起動]	(ソフト オプション) Workstation は仮想マシンを起動し、VMware Tools はゲスト OS でスクリプトを実行します。Windows ゲストで、DHCP を使用するように仮想マシンを構成している場合は、このスクリプトによって仮想マシンの IP アドレスが更新されます。Linux、FreeBSD、Solaris ゲストでは、このスクリプトによって仮想マシンのネットワーク通信が開始します。
[BIOS へのパワーオン]	Workstation は、BIOS セットアップ モードで仮想マシンを起動します。

- ツール バーから仮想マシンを起動するには、仮想マシンを選択して [開始] ボタンをクリックします。

仮想マシンに構成された起動のパワー コントロール設定によって、Workstation がハード パワーオンされるか、ソフト パワーオンされるかが決まります。ボタンの上にマウスを置くと、設定された動作がツールチップに表示されます。

次に進む前に

仮想マシン コンソール内をクリックし、仮想マシンがマウスとキーボードをコントロールするようにします。

仮想マシンのシャットダウン

仮想マシンは [VM] メニュー またはツール バーからシャットダウンできます。[VM] メニューを使用するときは、ハードまたはソフト パワー オプションを選択できます。

Workstation を終了する前に、ローカル ホスト システムで実行中の仮想マシンをパワーオフする必要はありません。仮想マシンをバックグラウンドで実行したまま Workstation を終了できます。[「仮想マシンを閉じる/Workstation を終了する \(P. 71\)」](#)を参照してください。

仮想マシンをフォルダ内に格納しているときは、バッチ処理による電源操作を行えます。[「フォルダによる仮想マシンの管理 \(P. 64\)」](#)を参照してください。

手順

- 仮想マシンのシャットダウン時にパワー オプションを選択するには、仮想マシンを選択してから [VM] - [パワー] を選択します。

オプション	説明
[パワーオフ]	(ハード オプション) Workstation は、作業中の状態に関係なく仮想マシンを突然パワーオフします。
[ゲストをシャットダウン]	(ソフト オプション) Workstation はゲスト OS にシャットダウン信号を送信します。シャットダウン信号を認識するオペレーティングシステムは安全にシャットダウンされます。一部のゲスト OS は、Workstation からのシャットダウン信号に反応しません。ゲスト OS が信号に反応しない場合は、物理マシンと同じようにゲスト OS でシャットダウンしてください。

- ツール バーから仮想マシンをシャットダウンするには、仮想マシンを選択して [停止] ボタンをクリックします。

仮想マシンに構成された停止のパワー コントロール設定によって、Workstation がハード パワーオフされるか、ソフト パワーオフされるかが決まります。ボタンの上にマウスを置くと、設定された動作がツールチップに表示されます。

仮想マシンの一時停止/一時停止の解除

仮想マシンは、数秒間から数分間まで複数回一時停止できます。仮想マシンが時間のかかる、プロセッサを集中的に使用するアクティビティを行っているためホストシステムを使用して緊急の作業を実行できない場合、一時停止機能が便利です。

注意 リモート仮想マシンは一時停止できません。

開始する前に

一時停止機能の制限事項について理解しておく必要があります。[\[一時停止機能の制限事項\(P.55\)\]](#)を参照してください。

手順

- 仮想マシンを一時停止するには、仮想マシンを選択し、[VM] - [一時停止] を選択します。
仮想マシンのディスプレイが暗くなり、ディスプレイ上に再生ボタンが表示されます。複数のモニタで表示するように構成された仮想マシンを一時停止した場合、モニタごとに再生ボタンが表示されます。
- Workstation のユーザー インターフェイスを操作することなくパワーオン状態の仮想マシンをすべて一時停止するには、ホスト コンピュータのタスクバーの通知領域にある仮想マシン ステータス アイコンを右クリックし、[すべての仮想マシンの一時停止] を選択します。
- 仮想マシンの一時停止を解除するには、仮想マシンのディスプレイ上の再生ボタンをクリックするか、[VM] - [一時停止] の選択を解除します。

一時停止機能の制限事項

一時停止機能には一定の制限事項があります。

- 仮想マシンが一時停止している場合、ユニティ モードへの切り替えは行えません。
- 一時停止している場合、仮想マシンはネットワーク パケットを送受信しません。仮想マシンが数分間以上一時停止した場合、一部のネットワーク接続が中断される場合があります。
- 仮想マシンが一時停止しているときにスナップショットを作成した場合、そのスナップショットを復元するときに仮想マシンは一時停止しません。同様に、一時停止しているときに仮想マシンをサスペンドした場合、仮想マシンをレジュームするときに一時停止しません。
- 仮想マシンが一時停止しているときにソフト パワー操作を開始した場合、これらの操作は、仮想マシンの一時停止が解除されるまで適用されません。
- 仮想マシンが一時停止している場合、LED とデバイスは有効のままになりますが、デバイス接続は、仮想マシンの一時停止が解除されるまで適用されません。
- リモート仮想マシンは一時停止できません。

仮想マシンのサスペンドまたはレジューム

仮想マシンの現在の状態を保存するには、仮想マシンをサスペンドします。仮想マシンをレジュームすると、仮想マシンをサスペンドする前に実行していたアプリケーションは、そのままの内容を実行中の状態でレジュームされます。

サスペンドとレジュームの動作速度は、仮想マシンが開始してから変更されたデータ量によって異なります。通常、最初のサスペンド処理は、2 回目以降のサスペンド処理よりも時間がかかります。仮想マシンをサスペンドすると、仮想マシン サスペンド状態 (.vms) ファイルがワーキング ディレクトリに生成されます。

仮想マシンのレジューム後に作業を行った場合、仮想マシンをサスペンド時の状態に戻すことはできません。繰り返し同じ状態に戻るには、スナップショットを作成する必要があります。

仮想マシンがフォルダ内にある場合、バッチ電源操作を実行できます。[\[フォルダによる仮想マシンの管理 \(P. 64\)\]](#)を参照してください。

手順

- 仮想マシンをサスペンドする場合のサスペンド オプションを選択するには、仮想マシンを選択して [VM] - [パワー] を選択します。

オプション	説明
[サスペンド]	(ハード オプション) Workstation は仮想マシンをサスペンドし、ネットワークを接続したままにします。
[ゲストをサスペンド]	(ソフト オプション) Workstation は仮想マシンをサスペンドし、ネットワークから切断します。VMware Tools は、ゲスト OS でスクリプトを実行します。Windows ゲストで、DHCP を使用するように仮想マシンを構成している場合は、このスクリプトによって仮想マシンの IP アドレスが解放されます。Linux、FreeBSD、および Solaris ゲストでは、このスクリプトによって仮想マシンのネットワーク通信が停止します。

- ツールバーから仮想マシンをサスペンドするには、仮想マシンを選択して [サスペンド] ボタンをクリックします。
仮想マシンに構成されたサスペンド パワー コントロール設定によって、Workstation がハード サスペンドまたはソフト サスペンドのどちらの操作を実行するのかが決定されます。構成されている動作は、ボタンの上にマウスを置くとツールチップに表示されます。
- サスペンド状態の仮想マシンをレジュームする場合のレジューム オプションを選択するには、仮想マシンを選択して [VM] - [パワー] を選択します。

オプション	説明
[レジューム]	(ハード オプション) Workstation は仮想マシンをサスペンド状態からレジュームします。
[ゲストをレジューム]	(ソフト オプション) Workstation は仮想マシンをサスペンド状態からレジュームし、ネットワークに再接続します。

- ツールバーから仮想マシンをレジュームするには、仮想マシンを選択して [レジューム] ボタンをクリックします。
仮想マシンに構成されたサスペンド パワー コントロール設定によって、Workstation がハード レジュームまたはソフト レジュームのどちらの操作を実行するのかが決定されます。構成されている動作は、ボタンの上にマウスを置くとツールチップに表示されます。

ドラッグアンドドロップ機能を使用

ドラッグアンドドロップ機能を使用して、ホストシステムと仮想マシン間で、ファイルとディレクトリ、電子メールの添付ファイル、プレーンテキスト、フォーマットされたテキスト、およびイメージを移動できます。電子メールの添付ファイルのドラッグは、ユニティ モードの場合に特に便利です。

次の場所の間で、ファイルまたはディレクトリをドラッグすることができます。

- ホストシステムと仮想マシンのファイル マネージャ間 (Windows エクスプローラーなど)。
- ファイル マネージャからドラッグアンドドロップをサポートするアプリケーションへ。
- ドラッグアンドドロップによるファイル単位の解凍をサポートするアプリケーション間 (zip ファイル マネージャなど)。
- 異なる仮想マシン間。

ホストと仮想マシン間でファイルやフォルダをドラッグすると、Workstation によって、ドロップした場所にそのファイルやフォルダのコピーが作成されます。たとえば、デスクトップ上のワード プロセッサのアイコンにファイルをドロップすると、オリジナル ファイルのコピーがワード プロセッサによって開かれます。コピーに行なった変更は、オリジナルファイルには反映されません。

最初は、一時ディレクトリに保存されているファイルのコピーがアプリケーションによって開かれます。Windows では、一時ディレクトリは %TEMP% 環境変数で指定されます。Linux および Solaris では、一時ディレクトリは /tmp/VMwareDnD です。異なるディレクトリにファイルを保存することで、ファイルに行なった変更を保護できます。

ドラッグアンドドロップの前提条件と制限事項

ドラッグアンドドロップ機能には、特定の前提条件と制限事項があります。

- ドラッグアンドドロップ機能を使用するには、仮想マシンに VMware Tools をインストールする必要があります。
- ドラッグアンドドロップ機能を使用するには、X ウィンドウと Solaris 10 ゲストを実行する Linux ホストとゲストで、Xorg X サーバと JDS/Gnome が動作している必要があります。
- Windows ホスト上のアプリケーションと Windows ゲスト上のアプリケーション間でのみ、イメージをドラッグすることができます。イメージのドラッグは、Linux ホストまたはゲストではサポートされません。
- Linux および Windows ホストと Linux、Windows、および Solaris 10 ゲスト間でのみ、ファイルとディレクトリ、電子メールの添付ファイル、プレーンテキスト、およびフォーマットされたテキストをドラッグできます。
- 電子メールの添付ファイルのドラッグは、4MB 未満のイメージまたはファイルに制限されます。
- プレーンテキストとフォーマットされたテキスト（フォーマットを含む）のドラッグは、4MB 未満のサイズに制限されます。
- テキストのドラッグは、Unicode 文字で表すことができる言語のテキストに制限されます。
- Workstation は、PNG フォーマットを使用して、ドラッグされるイメージをコード化します。イメージのドラッグは、PNG フォーマットに変換後、4MB 未満のイメージに制限されます。
- Windows 95 および Windows 98 ゲストでは、ドラッグアンドドロップ機能は、ファイルとディレクトリの場合のみサポートされます。

コピーと貼り付け機能を使用

仮想マシン間および仮想マシンで実行中のアプリケーション間で、テキストの切り取り、コピー、貼り付けを行うことができます。

また、ホストシステムで実行中のアプリケーションと仮想マシンで実行中のアプリケーション間で、イメージ、プレーンテキスト、フォーマットされたテキスト、および電子メールの添付ファイルの切り取り、コピー、貼り付けを行うこともできます。

電子メールの添付ファイルのコピーと貼り付けは、ユニティモードの場合に特に便利です。通常のホットキーやメニュー選択で、切り取り、コピー、貼り付けを行ってください。

コピーと貼り付けの前提条件と制限事項

コピーと貼り付け機能には、特定の前提条件と制限事項があります。

- コピーと貼り付け機能を使用するには、仮想マシンに VMware Tools をインストールする必要があります。
- Linux および Windows ホストと Linux、Windows、および Solaris 10 ゲスト間でのみ、コピーと貼り付け機能を使用できます。
- コピーと貼り付け機能を使用するには、X ウィンドウと Solaris 10 ゲストを実行する Linux ホストとゲストで、Xorg X サーバと JDS/Gnome が動作している必要があります。
- 電子メールの添付ファイルのコピーと貼り付けは、4MB 未満のイメージまたはファイルに制限されます。
- プレーンテキストとフォーマットされたテキスト（フォーマットを含む）のコピーと貼り付けは、4MB 未満のサイズに制限されます。
- テキストのコピーと貼り付けは、Unicode 文字で表すことができる言語のテキストに制限されます。
- Workstation は、PNG フォーマットを使用して、コピーおよび貼り付けされるイメージをコード化します。イメージのコピーと貼り付けは、PNG フォーマットに変換後、4MB 未満のイメージに制限されます。
- 仮想マシン間でファイルをコピーおよび貼り付けすることはできません。

- Windows 95 および Windows 98 ゲストでは、コピーと貼り付けは、64KB 未満のサイズのプレーン テキストに制限されます。

仮想マシンへのホスト プリンタの追加

仮想マシンに追加ドライバをインストールせずに、仮想マシンからホスト コンピュータで使用できる任意のプリンタに出力できます。

Workstation のプリンタ機能は、ThinPrint テクノロジを使用して、仮想マシンにマッピングされたホスト システム プリンタを複製します。仮想マシン プリンタを有効にした場合、Workstation は仮想シリアル ポートを使用してホスト プリンタと通信します。

注意 共有仮想マシンまたはリモートの仮想マシンにはプリンタを追加できません。

手順

- 1 仮想マシンを選択して、[VM] - [設定] を選択します。
- 2 [ハードウェア] タブで [追加] をクリックします。
- 3 [ハードウェア追加]ウィザードで、[プリンタ] を選択して [完了] を選択します。

デフォルトのデバイス設定は、仮想マシンをパワーオンしたときに仮想マシン プリンタを接続します。

仮想マシン内での取外し可能デバイスの使用

仮想マシン内で取外し可能デバイスを接続および切断できます。また、仮想マシンの設定を変更することによって取外し可能デバイスの設定を変更することもできます。

開始する前に

- 仮想マシンをオンにします。
- USB デバイスを接続または切断する場合は、Workstation による USB デバイスの処理方法を事前に確認してください。[「仮想マシンへの USB デバイスの接続 \(P. 59\)」](#)を参照してください。
- Linux ホストで USB デバイス ファイルシステムが `/proc/bus/usb` がない USB デバイスを接続または切断する場合は、USB ファイルシステムをこの場所にマウントする必要があります。[「Linux Host での USB ファイル システムのマウント \(P. 59\)」](#)を参照してください。

手順

- 取外し可能デバイスを接続するには、仮想マシンを選択して [VM] - [取外し可能デバイス] を選択し、デバイスを選択して [接続] を選択します。

デバイスが USB ハブを使用してホスト システムに接続されている場合、仮想マシンは USB デバイスのみを認識し、ハブは認識しません。

デバイスが仮想マシンに接続されると、そのデバイス名の横にチェック マークが表示され、仮想マシンのタスクバーにデバイス アイコンが表示されます。

- 取外し可能デバイスの設定を変更するには、[VM] - [取外し可能デバイス] を選択し、デバイスを選択して [設定] を選択します。
- 取外し可能デバイスを切断するには、仮想マシンを選択して [VM] - [取外し可能デバイス] を選択し、デバイスを選択して [切断] を選択します。

仮想マシンのタスクバーで、デバイス アイコンをクリックまたは右クリックしてデバイスを切断することもできます。タスクバーのアイコンの使用は、仮想マシンをフルスクリーン モードで実行している場合に特に便利です。

仮想マシンへの USB デバイスの接続

仮想マシンが実行中、そのウィンドウがアクティブになります。USB デバイスがホスト システムに差し込まれると、デフォルトで、デバイスはホストではなく仮想マシンに接続されます。ホストに接続されている USB デバイスが、パワーオン時に仮想マシンに接続されない場合は、デバイスを手動で仮想マシンに接続する必要があります。

USB デバイスを仮想マシンに接続した場合、Workstation はホストシステム上で使用ポートへの接続を維持します。仮想マシンをサスペンドまたはパワーオフしたり、デバイスをアンプラグすることができます。デバイスを再度プラグインするか、仮想マシンをレジュームすると、Workstation はデバイスを再接続します。Workstation は、仮想マシンの構成ファイル (.vmx) に自動接続エントリを書き込むことによって接続を維持します。

デバイスを切断したなどの理由で、Workstation がデバイスを再接続できない場合は、デバイスは除去され、デバイスの接続を行えない旨のメッセージが Workstation に表示されます。デバイスがまだ利用可能であれば、再度手動で接続することが可能です。

物理的なデバイスの取り外し、ホスト システムから仮想マシンへのデバイスの移動、仮想マシン間でのデバイスの移動、仮想マシンからホスト コンピュータへのデバイスの移動を実行するには、ホスト コンピュータからデバイスを取り外す場合のデバイス メーカーの手順に従います。Zip ドライブなどのデータ ストレージ デバイスの場合、この手順に従うことは特に重要です。ファイルを保存してすぐに、オペレーティング システムがデータをディスクに書き込む間もなくデータ ストレージ デバイスを移動すると、データが失われる可能性があります。

Linux Host での USB ファイル システムのマウント

Linux ホストでは、Workstation は USB デバイスへの接続に USB デバイス ファイル システムを使用します。USB デバイス ファイル システムが `/proc/bus/usb` にない場合は、USB ファイル システムをその場所にマウントする必要があります。

重要 USB ドライブのデバイス ノード ディレクトリ (`/dev/sda` など) をハード ディスクとして仮想マシンに追加しないでください。

開始する前に

ホスト システムへの root アクセス権があることを確認します。

手順

- 1 root として USB ファイル システムをマウントします。

```
mount -t usbfs none /proc/bus/usb
```

- 2 USB デバイスをホスト システムに接続します。

仮想マシン ディスプレイの変更

Workstation での仮想マシンおよび仮想マシン アプリケーションの表示方法を変更できます。フル スクリーン モードを使用すると仮想マシンがフル スクリーンで表示され、複数のモニタを使用できます。ユニティ モードを使用するとアプリケーションをホスト システムのデスクトップに直接表示できます。

- [フル スクリーン モードの使用](#) (P. 60)

フル スクリーン モードでは、仮想マシンのディスプレイはスクリーン全体に拡大され、Workstation ウィンドウの境界線は見えなくなります。

- [排他モードの使用](#) (P. 61)

フル スクリーン モードと同様に、排他モードでは Workstation 仮想マシンが画面全体で表示されます。グラフィックを集中的に使用するアプリケーション (ゲームなど) をフル スクリーン モードで実行する場合は、排他モードの使用をお勧めします。

- [ユニティ モードの使用 \(P. 61\)](#)

Linux または Windows 2000 以降のゲスト OS の仮想マシンをユニティ モードに切り替えて、ホスト システムのデスクトップ上にアプリケーションを直接表示できます。

- [1 つの仮想マシンでの複数モニタの使用 \(P. 62\)](#)

ホスト システムに複数のモニタが設定されている場合、複数のモニタを使用するように仮想マシンを構成できます。複数モニタ機能は、仮想マシンがフル スクリーン モードのときに使用できます。

- [複数の仮想マシンに複数のモニタを使用 \(P. 63\)](#)

ホスト システムにマルチ モニタが設定されている場合、各モニタでそれぞれ別の仮想マシンを実行できます。

フル スクリーン モードの使用

フル スクリーン モードでは、仮想マシンのディスプレイはスクリーン全体に拡大され、Workstation ウィンドウの境界線は見えなくなります。

バッテリー情報をレポートするようにゲスト OS を構成できます。この機能は、ノート型コンピュータ上で仮想マシンをフル スクリーン モードで実行している場合に便利です。[\[ゲストでのバッテリー状態のレポート\(P.60\)\]](#) を参照してください。

開始する前に

- 最新バージョンの VMware Tools がゲスト OS にインストールされていることを確認します。
- ゲスト OS のディスプレイ モードがホスト システムのディスプレイ モードよりも大きいことを確認します。ゲスト OS のディスプレイ モードがホスト システムのディスプレイ モードよりも小さい場合は、フル スクリーン モードを開始できない可能性があります。フル スクリーン モードを開始できない場合は、仮想マシンの構成ファイル (.vmx) に `mks.maxRefreshRate=1000` という行を追加します。
- 仮想マシンをオンにします。
- モニタが複数ある場合は、フル スクリーン モードで表示するために使用するモニタに Workstation ウィンドウを移動します。

手順

- フル スクリーン モードを開始するには、仮想マシンを選択して [表示] - [フル スクリーン] を選択します。
- 次のパワーオン状態の仮想マシンに切り替えるには、<Ctrl> + <Alt> + 右方向キーを押します。前のパワーオン状態の仮想マシンに切り替えるには、<Ctrl> + <Alt> + 左方向キーを押します。
- タブ間を切り替えるには、フル スクリーン ツールバーにある左方向キーと右方向キーを使用します。
- フル スクリーン モードを使用しているときにフル スクリーン ツールバーを非表示にするには、フル スクリーン ツールバーにある画鋲アイコンをクリックしてツールバーの外にマウス ポインタを移動します。
ツールバーの固定が解除され、ツールバーがモニタ上部へスライドして消えます。
- 非表示にしたフル スクリーン ツールバーを再度表示するには、ツールバーが表示されるようになるまで画面上部をポイントし、画鋲アイコンをクリックします。
- フル スクリーン モードを終了するには、フル スクリーン ツールバーで [表示] - [フル スクリーン] を選択し、[フル スクリーン] の選択を解除します。

ゲストでのバッテリー状態のレポート

ノート型コンピュータ上で仮想マシンをフル スクリーン モードで実行する場合は、ゲストにバッテリー情報を報告するオプションを構成することでバッテリー不足を確認できます。

開始する前に

仮想マシンをパワーオフします。

手順

- 1 仮想マシンを選択して、[VM] - [設定] を選択します。
- 2 [オプション] タブで [パワー] を選択します。
- 3 [バッテリー情報をゲストに報告] を選択します。
- 4 [OK] をクリックして、変更を保存します。

排他モードの使用

フルスクリーンモードと同様に、排他モードでは Workstation 仮想マシンが画面全体で表示されます。グラフィックを集中的に使用するアプリケーション（ゲームなど）をフルスクリーンモードで実行する場合は、排他モードの使用をお勧めします。

排他モードには利点と制限事項があります。

- 画面の上部にマウスを移動しても、フルスクリーンツールバーを使用できません。仮想マシン設定を構成するには、排他モードを終了する必要があります。
- 仮想マシンで入力が入力有効になっているときでも、使用できるのはバックグラウンド入力のショートカットのみです。バックグラウンド入力のショートカットを誤って押すことがないように変更できます。
- Windows ホストでは、排他モードは複数のモニタを使用しません。

開始する前に

- 最新バージョンの VMware Tools がゲスト OS にインストールされていることを確認します。
- 仮想マシンをオンにします。
- モニタが複数ある場合は、排他モードで使用するモニタに Workstation ウィンドウを移動します。
- フルスクリーンモードを開始します。[「フルスクリーンモードの使用 \(P. 60\)」](#) を参照してください。

手順

- 排他モードを開始するには、フルスクリーンツールバーから [表示] - [排他モード] を選択します。
- 排他モードを終了するには、<Ctrl> + <Alt> を押します。

Windows ホストでは、<Ctrl> + <Alt> を押すとフルスクリーンモードも終了します。Linux ホストでは、<Ctrl> + <Alt> を押すと、フルスクリーンモードに戻ります。

ユニティモードの使用

Linux または Windows 2000 以降のゲスト OS の仮想マシンをユニティモードに切り替えて、ホストシステムのデスクトップ上にアプリケーションを直接表示できます。

ユニティモードでは、仮想マシンのアプリケーションがホストシステムのデスクトップに表示されます。また、ホストシステムから仮想マシンの [スタート] または [アプリケーション] メニューを使用できます。仮想マシンのコンソールビューは非表示になります。開いている仮想マシンアプリケーションのアイテムは、開いているホストアプリケーションと同様にホストシステムのタスクバーに表示されます。

ユニティモードで表示されているホストシステムアプリケーションと仮想マシンアプリケーション間では、キーボードショートカットを使用して、イメージ、プレーンテキスト、フォーマットされたテキスト、および電子メール添付ファイルのコピー、切り取り、貼り付けを行うことができます。また、ホストシステムとゲスト OS の間でファイルのドラッグアンドドロップやコピーと貼り付けを行うこともできます。

ユニティモードのアプリケーションからファイルを保存したり、開こうとすると、仮想マシン内のファイルシステムが表示されます。ホスト OS からはファイルを開くことはできません。また、ファイルをホスト OS に保存することもできません。

一部のゲスト OS では、複数のモニタがある場合は、ユニティ モードのアプリケーション ウィンドウはプライマリ ディスプレイとして設定されているモニタのみに表示できます。ホストおよびゲスト OS が Windows XP 以降の場合、アプリケーション ウィンドウは追加モニタに表示できます。

Windows では、フル スクリーン モードでユニティ モードを使用できません。

注意 リモート仮想マシンではユニティ モードを使用できません。

開始する前に

- 仮想マシンが Workstation 6.x 以降の仮想マシンであることを確認します。
- 最新バージョンの VMware Tools がゲスト OS にインストールされていることを確認します。
- ゲスト OS が Linux または Windows 2000 以降であることを確認します。
- Linux のゲストおよびホストの場合、Metacity または KDE の最新バージョンがインストールされていることを確認します。Linux でのパフォーマンスは、システムなどの変数の組み合わせ、実行しているアプリケーション、および RAM の量によって異なります。
- 仮想マシンをオンにします。
- ユニティ モードを開始する場合、ユニティ モードで使用する仮想マシンのアプリケーションを開きます。

手順

- ユニティ モードを開始するには、仮想マシンを選択して [表示] - [ユニティ] を選択します。

Workstation ウィンドウでコンソール ビューが非表示になり、開いているアプリケーションがホストシステムのデスクトップ上のアプリケーション ウィンドウに表示されます。[表示] メニューの [ユニティ] の横にチェック マークが表示されます。

- Windows ホストシステムに仮想マシンの [スタート] メニューを表示するには、Windows ホストシステムで [スタート] メニューをポイントします。
- Linux ホストシステムに仮想マシンの [アプリケーション] メニューを表示するには、Linux ホストシステムでプライマリ モニタの左上隅をポイントします。
- ユニティ モードの仮想マシンが複数ある場合にそれぞれの [スタート] または [アプリケーション] メニューの間を移動するには、方向キー、<Tab> キー、または <Shift> + <Tab> キーを押して仮想マシンのメニューを順番に切り替え、<Enter> キーとスペースバーを押して仮想マシンを選択します。
- ユニティ モードを終了するには、[表示] - [ユニティ] を選択して [ユニティ] の選択を解除します。

1 つの仮想マシンでの複数モニタの使用

ホストシステムに複数のモニタが設定されている場合、複数のモニタを使用するように仮想マシンを構成できます。複数モニタ機能は、仮想マシンがフル スクリーン モードのときに使用できます。

注意 複数のモニタを構成するために、Windows ゲスト OS 内の画面のプロパティの設定を構成する必要はありません。

開始する前に

- 仮想マシンが Workstation 6.x 以降の仮想マシンであることを確認します。
- 最新バージョンの VMware Tools がゲスト OS にインストールされていることを確認します。
- ゲスト OS が、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、または Linux であることを確認します。
- 仮想マシンをパワーオフします。

手順

- 1 [編集] - [環境設定] を選択します。

- 2 [ディスプレイ] を選択してから [ゲストをウィンドウに合わせる] を選択し、[OK] をクリックします。
この設定により、アプリケーション ウィンドウのサイズが変更されたときに、アプリケーション ウィンドウに合わせて仮想マシンのディスプレイ設定が変更されるようになります。
- 3 仮想マシンがスナップショットから復元するように設定されていて、バックグラウンド スナップショットが有効化されている場合は、[編集] - [環境設定] を選択し、[優先順位] を選択して [スナップショットをバックグラウンドで作成、復元する] の選択を解除してから [OK] をクリックします。
この設定が有効になっていると、仮想マシンを 2 つのモニターで正常に表示できない場合があります。
- 4 仮想マシンをパワーオンして、[表示] - [フル スクリーン] を選択します。
- 5 フル スクリーン ツール バーで、[複数のモニターをサイクル] ボタンをクリックします。
Windows ホストで、ツール バーのボタン上にマウスを移動すると名前を確認できます。
ゲスト OS のデスクトップが、追加モニターに拡張されます。
- 6 仮想マシンのディスプレイが正しくサイズ変更されない場合は、[表示] - [自動サイズ調整] - [ゲストをウィンドウに合わせる] を選択します。
- 7 ホストシステムが 3 つ以上のモニターを使用している場合に仮想マシンですべてのモニターを使用するには、[複数のモニターをサイクル] ボタンを再びクリックします。
仮想マシンがモニターを使用する順序は、モニターがホスト OS に追加された順序で設定されます。ボタンを続けてクリックすると、少ないモニター数に戻ります。

複数の仮想マシンに複数のモニターを使用

ホストシステムにマルチ モニターが設定されている場合、各モニターでそれぞれ別の仮想マシンを実行できます。

開始する前に

最新バージョンの VMware Tools がゲスト OS にインストールされていることを確認します。

手順

- 1 2 つ目の Workstation ウィンドウを開きます。

オプション	説明
Workstation で新しい Workstation ウィンドウを開きます。	[ファイル] - [新しいウィンドウ] を選択します。Linux ホストでは、単一の Workstation プロセスで複数のウィンドウが動作します。
(Linux ホストのみ) 異なる X サーバで 2 番目の Workstation プロセスを実行します。	コマンド <code>vmware</code> に <code>-W</code> フラグを指定して実行します。例: <code>vmware -W &</code>

- 2 各 Workstation ウィンドウで仮想マシンを起動します。
- 3 各 Workstation ウィンドウを任意のモニターにドラッグします。
1 つの Workstation ウィンドウで 1 つの仮想マシンを実行していて、その仮想マシンを別の Workstation ウィンドウで実行する場合は、まず実行中のウィンドウでその仮想マシンを閉じてから、もう 1 つのウィンドウで開く必要があります。
- 4 マウスとキーボードの入力先を最初のモニターの仮想マシンから次のモニターの仮想マシンに切り替えるには、マウスのポインタを一方のモニター上から、もう一方のモニターに移動してクリックしてください。

フォルダによる仮想マシンの管理

フォルダを使用して、ライブラリ内の複数の仮想マシンを整理、管理できます。フォルダ内の仮想マシンはフォルダタブで管理し、バッチ電源操作を実行できます。

- [仮想マシンをフォルダに追加](#) (P. 64)

仮想マシンをフォルダに追加すると、その仮想マシンは独立したエンティティのままですが、バッチ電源操作も実行できるようになります。たとえば、フォルダ内の各仮想マシンを個別にパワーオン、サスペンド、およびレジュームすることも、フォルダ内のすべての仮想マシンを同時にパワーオン、サスペンド、およびレジュームすることもできます。

- [仮想マシンをフォルダから削除](#) (P. 65)

仮想マシンをフォルダから削除したり、異なるフォルダやサブフォルダに移動できます。

- [フォルダ内の仮想マシンの管理](#) (P. 65)

フォルダ内にある仮想マシンはユニットとして管理できます。たとえば、フォルダタブで複数の仮想マシンを選択し、複数の仮想マシンに同時に電源操作を実行できます。

- [パワーオン遅延の変更](#) (P. 65)

デフォルトでは、フォルダ内のいくつかの仮想マシンをパワーオンすると、Workstation では次の仮想マシンをパワーオンするまで 10 秒の遅延時間があります。パワーオン遅延により、複数の仮想マシンをパワーオンする際にホストシステムの CPU の負荷が軽減されます。Workstation の環境設定を変更することにより、デフォルトのパワーオン遅延設定を変更できます。

- [チームの変換](#) (P. 66)

Workstation の以前のバージョンで作成したチームは、Workstation の最新バージョンで仮想マシンを使用する前に変換する必要があります。

仮想マシンをフォルダに追加

仮想マシンをフォルダに追加すると、その仮想マシンは独立したエンティティのままですが、バッチ電源操作も実行できるようになります。たとえば、フォルダ内の各仮想マシンを個別にパワーオン、サスペンド、およびレジュームすることも、フォルダ内のすべての仮想マシンを同時にパワーオン、サスペンド、およびレジュームすることもできます。

手順

- 1 フォルダが存在しない場合は作成します。

オプション	説明
ライブラリのトップレベルにフォルダを作成	[マイ コンピュータ] を右クリックし、[新しいフォルダ] を選択し、フォルダ名を入力します。フォルダがライブラリの [マイ コンピュータ] の下に表示されます。
サブフォルダを作成	フォルダを右クリックし、[新しいフォルダ] を選択し、フォルダ名を入力します。新しいフォルダがライブラリ内のフォルダの下に表示されます。

作成できるフォルダまたはサブフォルダの数に制限はありません。

- 2 仮想マシンをフォルダに追加するには、ライブラリ内で仮想マシンを選択し、フォルダにドラッグします。

仮想マシンがライブラリ内のフォルダの下に表示されます。フォルダに追加できる仮想マシンの数に制限はありません。

仮想マシンをフォルダから削除

仮想マシンをフォルダから削除したり、異なるフォルダやサブフォルダに移動できます。

手順

- 仮想マシンをフォルダから削除するには、ライブラリ内で仮想マシンを選択し、[マイ コンピュータ] にドラッグします。
仮想マシンがライブラリの [マイ コンピュータ] の下に表示されます。
- 仮想マシンを異なるフォルダまたはサブフォルダに移動するには、ライブラリ内で仮想マシンを選択し、フォルダまたはサブフォルダにドラッグします。
仮想マシンがライブラリ内のフォルダまたはサブフォルダの下に表示されます。

フォルダ内の仮想マシンの管理

フォルダ内にある仮想マシンはユニットとして管理できます。たとえば、フォルダ タブで複数の仮想マシンを選択し、複数の仮想マシンに同時に電源操作を実行できます。

デフォルトでは、いくつかの仮想マシンを同時にパワーオンすると、Workstation では次の仮想マシンをパワーオンするまで 10 秒の遅延時間があります。仮想マシンへの電源操作はフォルダ タブに表示される順序で実行されます。

Workstation の環境設定を変更することにより、デフォルトのパワーオン遅延設定を変更できます。[「パワーオン遅延の変更 \(P.65\)」](#) を参照してください。

手順

- 複数の仮想マシンに同時に電源操作を実行するには、<Ctrl> キーを押しながらフォルダ タブ上の仮想マシンをクリックして選択し、ツール バーまたは [VM] メニューから電源操作を選択します。
選択したすべての仮想マシンが同じ電源状態にある必要があります。
- すべての仮想マシンに同時に電源操作を実行するには、ライブラリでフォルダを選択し、ツール バーまたは [VM] メニューから電源操作を選択します。
フォルダ内のすべての仮想マシンが同じ電源状態にある必要があります。
- フォルダ タブ上の仮想マシンのサムネイルを表示するには、フォルダ タブのドロップダウン メニューからサムネイル サイズを選択します。
仮想マシンがパワーオンされると、サムネイルはリアルタイムで更新され、実際の仮想マシンの内容が表示されます。仮想マシンがサスペンドされると、サムネイルには仮想マシンがサスペンドされたときのスクリーンショットが表示されます。
- フォルダ タブに仮想マシン名を表示するには、フォルダ タブのドロップダウン メニューから [詳細] を選択します。
- 仮想マシンのタブを開くには、フォルダ タブの仮想マシンをダブルクリックします。

パワーオン遅延の変更

デフォルトでは、フォルダ内のいくつかの仮想マシンをパワーオンすると、Workstation では次の仮想マシンをパワーオンするまで 10 秒の遅延時間があります。パワーオン遅延により、複数の仮想マシンをパワーオンする際にホストシステムの CPU の負荷が軽減されます。Workstation の環境設定を変更することにより、デフォルトのパワーオン遅延設定を変更できます。

手順

- 1 [編集] - [環境設定] を選択し、[ワークスペース] を選択します。
- 2 [複数の VM をパワーオンする間隔の秒数] ドロップダウン メニューから遅延の秒数を選択します。
- 3 [OK] をクリックして、変更を保存します。

チームの変換

Workstation の以前のバージョンで作成したチームは、Workstation の最新バージョンで仮想マシンを使用する前に変換する必要があります。

手順

- 1 Workstation でチームを開くか、仮想マシンチーム構成 (.vmtm) ファイルの場所に移動してファイルをライブラリにドラッグします。

チームの変換を求めるダイアログ ボックスが表示されます。

- 2 [チームを変換] をクリックしてチームを変換します。

チームが変換されると .vmtm ファイルは削除され、ライブラリの新しいフォルダに仮想マシンが追加されます。

チームを変換しても、パケットロスとバンド幅の設定は仮想マシンに保持されます。LAN セグメント情報は、各仮想マシンのネットワークアダプタ設定に表示され、変更できます。

仮想マシンのスナップショットの作成

仮想マシンのスナップショットを作成して現在の状態を保存しておくことで、同じ状態に何度でも戻ることができます。スナップショットを作成するときに、Workstation によって仮想マシン全体の状態が取り込まれます。スナップショットマネージャで、アクティブな仮想マシンのスナップショットをレビューして操作できます。

- [仮想マシンの状態を保存のためにスナップショットを使用する \(P. 67\)](#)
スナップショットには、仮想マシンのメモリ、仮想マシンの設定、およびすべての仮想ディスクの状態が含まれます。スナップショットに戻ったときに、仮想マシンのメモリ、設定、仮想ディスクがすべてスナップショット作成時の状態に戻ります。
- [スナップショット マネージャの使用 \(P. 67\)](#)
スナップショット マネージャでは、仮想マシンのすべてのスナップショットをレビューし、直接操作することができます。
- [仮想マシンのスナップショットの作成 \(P. 68\)](#)
スナップショットを作成すると、ある特定の時点での仮想マシンの状態が保存され、仮想マシンは実行を続けます。スナップショットを作成すると、繰り返し同じ状態に戻ることができます。スナップショットは、仮想マシンがオン、オフ、サスペンドのいずれの状態でも作成可能です。
- [スナップショットまで戻る \(P. 69\)](#)
スナップショットまで戻ることによって仮想マシンを以前の状態に復元できます。
- [パワーオフ時にスナップショットを作成するかスナップショットに戻る \(P. 69\)](#)
仮想マシンのパワーオフ時にスナップショットに戻るように、または新たなスナップショットを作成するように仮想マシンを構成できます。この機能は、仮想マシンのパワーオフ時に変更を破棄する必要がある場合に有用です。
- [AutoProtect スナップショットの有効化 \(P. 69\)](#)
AutoProtect 機能を使用すると、指定した一定の間隔でスナップショットが作成され、仮想マシンの状態が保存されます。このプロセスは、いつでも作成できる手動スナップショットに加えて実行されます。
- [スナップショットの削除 \(P. 70\)](#)
スナップショットを削除すると、保存された仮想マシンの状態が削除されるため、二度とその状態には戻れなくなります。スナップショットを削除しても、仮想マシンの現在の状態に影響はありません。

仮想マシンの状態を保存のためにスナップショットを使用する

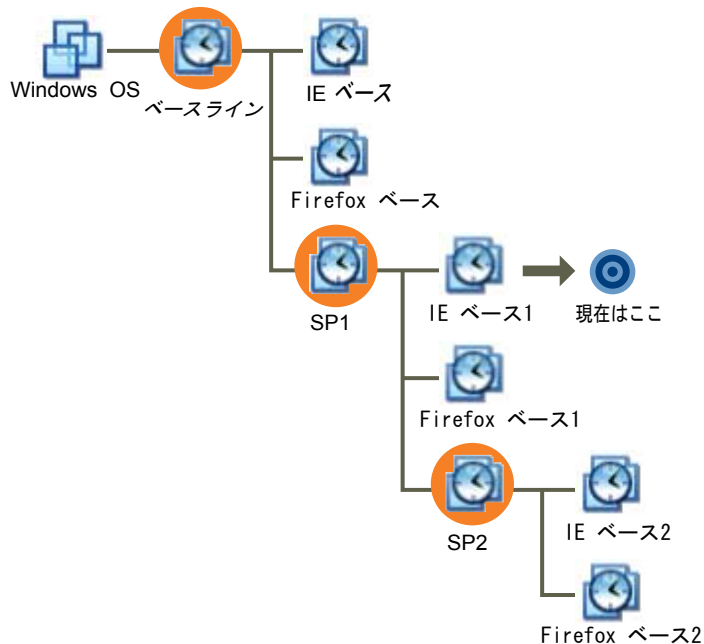
スナップショットには、仮想マシンのメモリ、仮想マシンの設定、およびすべての仮想ディスクの状態が含まれます。スナップショットに戻ったときに、仮想マシンのメモリ、設定、仮想ディスクがすべてスナップショット作成時の状態に戻ります。

仮想マシンで変更の予定が複数ある場合、線形処理でスナップショットを作成できます。たとえば、スナップショットを作成する、その時点から引き続き仮想マシンを使用する、後の時点で別のスナップショットを作成する、という作業を繰り返すことができます。プロジェクトの変更後、期待どおりに動作しない場合、動作することがわかっている以前の状態のスナップショットに戻すことができます。

ローカル仮想マシンでは、各線形処理で 100 個以上のスナップショットを作成できます。共有仮想マシンおよびリモート仮想マシンでは、各線形処理で最大 31 個のスナップショットを作成できます。

ソフトウェアをテストしている場合、プロセスツリーの 1 つのベースラインから複数のスナップショットをブランチとして保存できます。たとえば、別バージョンのアプリケーションをインストールする前にスナップショットを作成し、各インストールが同一のベースラインから開始されるようにすることができます。

図 4-1. プロセス ツリー内の復元ポイントとしてのスナップショット



複数のスナップショットには親子関係があります。仮想マシンの親スナップショットとは、現在の状態の元のスナップショットです。スナップショットの作成後は、保存されたその状態が仮想マシンの親スナップショットです。前のスナップショットに復元した場合、そのスナップショットが仮想マシンの親スナップショットとなります。

線形処理では、各スナップショットに親スナップショットと子スナップショットが 1 つずつ存在しますが、最後のスナップショットだけは親スナップショットのみです。プロセス ツリーでは、各スナップショットに親スナップショットは 1 つ存在します。子スナップショットが複数ある場合もありますが、スナップショットの多くは子スナップショットが存在しません。

スナップショット マネージャの使用

スナップショット マネージャでは、仮想マシンのすべてのスナップショットをレビューし、直接操作することができます。

次の操作を実行するには、スナップショット マネージャを使用する必要があります。

- [スナップショット] メニューに AutoProtect スナップショットを表示する。
- AutoProtect スナップショットが削除されないようにする。

- スナップショットの名前または説明を変更する。
- スナップショットを削除する。

スナップショットに関するその他の操作は、すべて [VM] メニューの [スナップショット] のメニュー項目から実行できます。

仮想マシンのスナップショット マネージャを開くと、スナップショット ツリーが表示されます。スナップショット ツリーには、その仮想マシンの全スナップショットとスナップショット間の関係が表示されます。

スナップショット ツリーの [現在点] アイコンは、仮想マシンの現在の状態を示します。スナップショット ツリーのその他のアイコンは、AutoProtect スナップショット、パワーオンされている仮想マシンのスナップショット、パワーオフされている仮想マシンのスナップショット、およびリンク クローンの作成に使用されたスナップショットを表します。

スナップショット マネージャは、[VM] メニューの [スナップショット] のメニュー項目から実行できます。

仮想マシンのスナップショットの作成

スナップショットを作成すると、ある特定の時点での仮想マシンの状態が保存され、仮想マシンは実行を続けます。スナップショットを作成すると、繰り返し同じ状態に戻ることができます。スナップショットは、仮想マシンがオン、オフ、サスペンドのいずれの状態でも作成可能です。

仮想マシン内のアプリケーションが他のコンピュータ、特に実稼働環境にあるコンピュータと通信を行っているときには、スナップショットを作成しないようにしてください。たとえば、仮想マシンがネットワーク上のサーバからファイルをダウンロードしているときにスナップショットを作成すると、スナップショットを作成した後も、仮想マシンはファイルのダウンロードを続けます。その結果、そのスナップショットに戻った場合、仮想マシンとサーバ間の通信は混乱しファイルの転送は失敗します。

注意 Workstation 4 の仮想マシンでは、複数のスナップショットをサポートしていません。複数のスナップショットを作成するには、仮想マシンを Workstation 7.x 以降にアップグレードする必要があります。

開始する前に

- 物理ディスクを使用するように仮想マシンが構成されていないことを確認します。物理ディスクを使用する仮想マシンのスナップショットは作成できません。
- 仮想マシンの起動時に、仮想マシンをサスペンド、パワーオン、またはパワーオフ状態に戻すときは、スナップショットを作成する前にその状態である必要があります。スナップショットに戻ったときに、仮想マシンのメモリ、設定、仮想ディスクがすべてスナップショット作成時の状態に戻ります。
- サスペンド操作を完了します。
- 仮想マシンが別のコンピュータと通信していないことを確認します。
- パフォーマンスを高めるには、ゲスト OS ドライブを最適化します。
- 仮想マシンが使用する複数のディスクのディスク モードが異なっている場合は、仮想マシンをパワーオフします。たとえば、独立ディスクを必要とする構成では、スナップショットを作成する前に仮想マシンをパワーオフしてください。
- 仮想マシンが Workstation 4 で作成されている場合は、既存のスナップショットを削除するか、または仮想マシンを Workstation 5.x 以降にアップグレードします。

手順

- 1 仮想マシンを選択して、[VM] - [スナップショット] - [スナップショットの作成] を選択します。
- 2 スナップショットの一意的名前を入力します。
- 3 (オプション) スナップショットの説明を入力します。
スナップショットにキャプチャされる仮想マシンの状態に関するメモを記録する場合、説明を使用すると便利です。
- 4 [OK] をクリックしてスナップショットを作成します。

スナップショットまで戻る

スナップショットまで戻ることによって仮想マシンを以前の状態に復元できます。

仮想マシンのスナップショットを作成してから任意の種類ディスクを追加した場合は、そのスナップショットに戻ると追加したディスクが仮想マシンから削除されます。関連付けられたディスク（.vmdk）ファイルが別のスナップショットで使用されていない場合、それらのディスク ファイルは削除されます。

重要 仮想マシンに独立ディスクを追加してスナップショットを作成した場合、そのスナップショットに戻っても独立ディスクの状態には影響しません。

手順

- 親スナップショットに戻するには、仮想マシンを選択して [VM] - [スナップショット] - [スナップショットまで戻る] を選択します。
- 任意のスナップショットに戻するには、仮想マシンを選択して [VM] - [スナップショット] を選択し、スナップショットを選択して [移動] をクリックします。

パワーオフ時にスナップショットを作成するかスナップショットに戻る

仮想マシンのパワーオフ時にスナップショットに戻るように、または新たなスナップショットを作成するように仮想マシンを構成できます。この機能は、仮想マシンのパワーオフ時に変更を破棄する必要がある場合に有用です。

手順

- 1 仮想マシンを選択して、[VM] - [設定] を選択します。
- 2 [オプション] タブで [スナップショット] を選択します。
- 3 パワーオフ時のオプションを選択します。

オプション	説明
パワーオフする	スナップショットに変更を加えずに仮想マシンをパワーオフします。
スナップショットまで戻る	仮想マシンの現在の状態の親スナップショットまで戻ります。
スナップショットを新規作成する	仮想マシンのパワーオフ後の状態のスナップショットを作成します。作成されたスナップショットはスナップショット マネージャに表示されます。仮想マシンがパワーオフされた日時がスナップショット名となり、パワーオフ時に自動スナップショットが作成された旨のメッセージが表示されます。 注意 このオプションは、共有仮想マシンまたはリモート仮想マシンの場合は構成できません。
選択画面を表示	仮想マシンのパワーオフ時に、単にパワーオフするか、以前のスナップショットに戻るか、または新たなスナップショットを作成するかを選択を求められます。

- 4 [OK] をクリックして、変更を保存します。

AutoProtect スナップショットの有効化

AutoProtect 機能を使用すると、指定した一定の間隔でスナップショットが作成され、仮想マシンの状態が保存されます。このプロセスは、いつでも作成できる手動スナップショットに加えて実行されます。

仮想マシンで AutoProtect スナップショットを有効にすると、AutoProtect スナップショットによって占有される最小ディスク領域の推定値が Workstation の [仮想マシン設定] ウィンドウに表示されます。最小ディスク領域のサイズは、仮想マシン用のメモリ設定の影響を受けます。仮想マシンのメモリ量が多いほど、AutoProtect スナップショットに使用できるディスク領域が大きくなります。

AutoProtect 機能にはいくつかの制限があります。

- AutoProtect では仮想マシンがパワーオン状態のときだけスナップショットが作成されるため、AutoProtect スナップショットのクローンは作成できません。仮想マシンのクローンは、仮想マシンがパワーオフ状態の場合にのみ作成できます。
- Workstation で仮想マシンに対して AutoProtect が有効になっていても、VMware Player では AutoProtect スナップショットは作成されません。
- AutoProtect 機能は共有仮想マシンやリモート仮想マシンに対して設定できません。

手順

- 1 仮想マシンを選択して、[VM] - [設定] を選択します。
- 2 [オプション] タブで [AutoProtect] を選択し、[AutoProtect の有効化] を選択します。
- 3 スナップショットの間隔を選択します。

オプション	説明
30 分ごと	30 分ごとにスナップショットが作成されます。
1 時間ごと	1 時間ごとにスナップショットが作成されます。
毎日	毎日スナップショットが作成されます。

この間隔は、仮想マシンがパワーオンされているときのみ計測されます。たとえば、AutoProtect でスナップショットを 1 時間ごとに作成するように設定し、その 5 分後に仮想マシンをパワーオフにした場合、仮想マシンがパワーオフ状態だった時間の長さにかかわらず、仮想マシンを再度パワーオンしてから 55 分後に次の AutoProtect スナップショットが作成されます。

1 つのスナップショットが複数の層に一致する場合でも、Workstation は層ごとに 1 つのスナップショットしか作成しません。

- 4 保持する AutoProtect スナップショットの最大数を選択します。

AutoProtect スナップショットが最大数に達した後は、新しい AutoProtect スナップショットが作成されるたびに、最も古い AutoProtect スナップショットが削除されます。この設定は、作成および保持できる手動スナップショットの数には影響しません。

- 5 [OK] を選択して変更を保存します。

スナップショットの削除

スナップショットを削除すると、保存された仮想マシンの状態が削除されるため、二度とその状態には戻れなくなります。スナップショットを削除しても、仮想マシンの現在の状態に影響はありません。

クローンを作成するためにスナップショットが使用される場合、そのスナップショットはロックされます。ロックされたスナップショットを削除すると、そのスナップショットから作成されたクローンは動作しなくなります。

仮想マシンがクローン作成用のテンプレートに指定されている場合は、そのマシンに関連するスナップショットは削除できません。

手順

- 1 仮想マシンを選択して、[VM] - [スナップショット] - [スナップショット マネージャ] を選択します。
- 2 AutoProtect スナップショットを削除する場合は、[AutoProtect スナップショットを表示] を選択します。
- 3 スナップショットを選択します。

- 4 スナップショットの削除オプションを選択します。

オプション	アクション
単一スナップショットの削除	[削除] をクリックします。
スナップショットとそのすべての子スナップショットを削除	右クリックし、[スナップショットと子スナップショットを削除] を選択します。
すべてのスナップショットを削除	右クリックし、[すべて選択] を選択し、[削除] をクリックします。

- 5 [閉じる] をクリックしてスナップショット マネージャを閉じます。

仮想マシンを閉じる/Workstation を終了する

ローカル ホスト システム上で実行している仮想マシンをパワーオフせずに閉じることができます。デフォルトでは、Workstation でパワーオンされている仮想マシンを閉じたり、仮想マシンをローカル ホスト システム上で実行中に Workstation を終了するとき、操作を選択するよう求めるプロンプトが表示されます。

注意 リモート仮想マシンを閉じると、仮想マシン タブが閉じます。仮想マシンがパワーオンされている場合には、リモート ホスト上で実行し続けます。

表 4-1. 閉じるおよび終了操作

操作	説明
[バックグラウンドで実行]	仮想マシンをバックグラウンドで引き続き実行します。VNC またはその他のサービスから仮想マシンを操作できます。 デフォルトでは、仮想マシンのステータス アイコンはホスト システム上のタスクバーの通知領域に表示されます。このアイコンの上にマウス ポインタを置くと、現在ログインしているユーザーに属するバックグラウンドで実行中の仮想マシンの数がツールチップに表示されます。
[サスペンド]	仮想マシンをサスペンドし、現在の状態を保存します。
[パワーオフ]	仮想マシンをパワーオフします。デフォルトでは、仮想マシンは突然パワーオフされず、これは物理マシンの電源ボタンを使用した場合と同じです。

Workstation の環境設定を構成して、操作を求めるプロンプトを表示せずに常に仮想マシンをバックグラウンドで実行するように設定できます。また、仮想マシンのオプション設定を構成して、パワーオフ動作を指定することもできます。

仮想マシンを常にバックグラウンドで実行するように設定

Workstation の環境設定で仮想マシンを常にバックグラウンドで実行するように構成し、パワーオン状態の仮想マシンを閉じるときにアクションの選択を求められないように設定できます。

手順

- 1 [編集] - [環境設定] を選択します。
- 2 [ワークスペース] を選択して、[Workstation を閉じた後も引き続き仮想マシンを実行する] を選択します。
- 3 [OK] をクリックして、変更を保存します。

バックグラウンドで実行している仮想マシンの起動

Workstation が起動されていない場合、バックグラウンドで実行している仮想マシンを起動できます。

開始する前に

仮想マシンをバックグラウンドで実行するように設定します。[「仮想マシンを閉じる/Workstation を終了する \(P. 71\)」](#)を参照してください。

手順

- 1 ホストシステムで、タスクバーの通知領域にある仮想マシンのステータスアイコンをクリックします。
バックグラウンドで実行中の仮想マシンのリストがツールチップに表示されます。リストには、現在ログインしているユーザーに属する仮想マシンが表示されます。
- 2 ツールチップに表示されるリストから仮想マシンを選択します。
Workstation が起動し、仮想マシンのコンソールビューが表示されます。

インデックス

A

Advanced Linux Sound Architecture 9
AutoProtect スナップショット、有効化 69

B

BIOS、仮想マシン サポート 10

C

CPU、ホスト要件 7
Creative Labs Sound Blaster 12

E

Eclipse、インストール 16

F

FreeBSD ゲスト OS、VMware Tools のインストール
またはアップグレード (tar インストーラ) 50

H

HD Audio 12

I

IDE ドライブ
仮想マシン サポート 11
ホスト要件 9
Intel High-Definition Audio 12

L

LAN、ホスト要件 9
Linux ゲスト、VMware Tools のインストールまたは
アップグレード (tar インストーラ) 46

M

Microsoft Windows ゲスト OS、VMware Tools の
インストールまたはアップグレード 45

N

NetWare ゲスト OS、VMware Tools のインストール
またはアップグレード (tar インストーラ) 48

R

RAM、ホスト要件 8
REMOVE プロパティの値 19

S

SCSI デバイス、仮想マシン サポート 11
SCSI ドライブ、ホスト要件 9
Solaris ゲスト OS、VMware Tools のインストールま
たはアップグレード (tar インストーラ) 49

T

tar インストーラ 46

U

USB デバイス
Linux ホストでのマウント 59
接続 59
USB ポート、仮想マシン サポート 12

V

Visual Studio、インストール 16
VMware Tools
インストール 45
使用 43
VMware Tools のアンインストール 51
VMware Tools のアップグレード
FreeBSD (tar インストーラ) 50
Linux (tar インストーラ) 46
Microsoft Windows 45
NetWare (tar インストーラ) 48
Solaris (tar インストーラ) 49
プロセス 44
プロセスの概要 44
VMware Tools のインストール
FreeBSD (tar インストーラ) 50
Linux (tar インストーラ) 46
Microsoft Windows 45
NetWare (tar インストーラ) 48
Solaris (tar インストーラ) 49
プロセス 44
プロセスの概要 44
VMware Tools のインストールの修復 51
VMware ユーザー、手動での開始 51

W

Workstation ウィンドウ
仮想マシン操作の実行 29
使用 28
表示のカスタマイズ 31
Workstation タブ 31

Workstation のアップグレード

Linux ホスト 24

Windows ホスト 23

準備作業 22

Workstation のアンインストール

Linux ホスト 28

Windows ホスト 27

手順 27

Workstation のインストール

Linux ホスト 20

Windows ホスト 16

Windows ホスト上の自動インストール 18

Workstation の起動 28

い

イーサネットカード、仮想マシン サポート 12

一時停止機能の制限事項 55

インストールの制限事項 16

インストール プロパティ 19

お

オペレーティングシステム、サポートされるホスト 8

オンライン ヘルプ、使用 33

か

仮想ディスク

新しい仮想マシンを使用 36

ディスク領域の割り当て 39

仮想ネットワーク、仮想マシン サポート 12

仮想マシン

概要 35

作成 35

使用 53

仕様 10

ソフトウェアのインストール 52

ハードウェアの互換性の変更 26

標準的な機能 36

仮想マシン ディレクトリ 39

仮想マシンの一時停止 55

仮想マシンの起動 53

仮想マシンのサスペンド 55

仮想マシンのパワーオフ 54

仮想マシンのレジューム 55

仮想マシン ファイル、新規仮想マシン ウィザードでの指定 39

仮想マシン ライブラリ 30

仮想マシンを閉じる 71

簡易インストール

オペレーティングシステム サポート 38

プロンプトへの応答 38, 42

き

キーボード、仮想マシン サポート 10

く

グラフィックス、仮想マシン サポート 10

け

ゲスト OS

サポート 10

手動インストール 42

選択 37

こ

コピーと貼り付け機能

使用 57

制限 57

コマンドラインオプション、Linux での Workstation のインストール 21

さ

サイレント インストール、Windows ホスト 18

サウンド、仮想マシン サポート 12

サムネイル

仮想マシンの管理 64

使用 65

サムネイル バー 30

し

システム要件、ホストシステム 7

自動インストール

REMOVE プロパティの値 19

インストール プロパティ 19

シリアルポート、仮想マシン サポート 11

新規仮想マシン ウィザード 40

す

ステータス バー 31

スナップショット

AutoProtect の有効化 69

削除 70

作成 66, 68

使用 67

パワーオフ オプション 69

戻る 69

スナップショット マネージャ、使用 67

た

対象読者情報 5

ち

チーム 66

チームの変換 66

チップセット、仮想マシン サポート 10

て

ディスクドライブ

仮想マシン サポート 11

ホスト要件 9

と

- ドラッグアンドドロップ機能
使用 56
- 制限 57
- 取外し可能デバイス 58

は

- ハードウェア、カスタマイズ 40
- ハードウェアの互換性、変更 27
- 排他モード 61
- バックグラウンド設定、構成 71
- バックグラウンドの仮想マシンの起動 71
- バッチ電源操作 65
- バッテリー情報 60
- パラレルポート、仮想マシンサポート 11
- パワーオン遅延 65

ひ

- 描画タブレット、仮想マシンサポート 12
- 表示
 - 変更 59
 - ホスト要件 8

ふ

- フォルダ
 - 仮想マシンの管理 64
 - 仮想マシンの削除 65
 - 作成 64
- プリンタ、仮想マシンでホストプリンタを使用 58
- フルスクリーンモード 60
- プロセッサ
 - 仮想マシンでサポートされている 10
 - ホスト要件 7
- フロッピードライブ、仮想マシンサポート 11

へ

- ヘルプシステム、ホスト要件 9

ほ

- ホストでサポートされる光学ドライブ 9
- ホットキー、デフォルトの組み合わせ 32

ま

- マウスのタイプ、仮想マシンサポート 12

め

- メモリ
 - 仮想マシンでの割り当て 10
 - ホスト要件 8

も

- モニタ、複数の使用 62, 63

ゆ

- ユニティモード機能 61

ら

- ライセンスキー、入手 15

わ

- ワークシート、標準仮想マシン 40

